

# 平安京左京一条四坊九町跡・公家町遺跡

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告  
二〇一五―一三

平安京左京一条四坊九町跡・公家町遺跡

2016年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

公益財団法人  
京都市埋蔵文化財研究所



# 平安京左京一条四坊九町跡・公家町遺跡

2016年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様幅広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、建物新築工事に伴う公家町遺跡・平安京跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

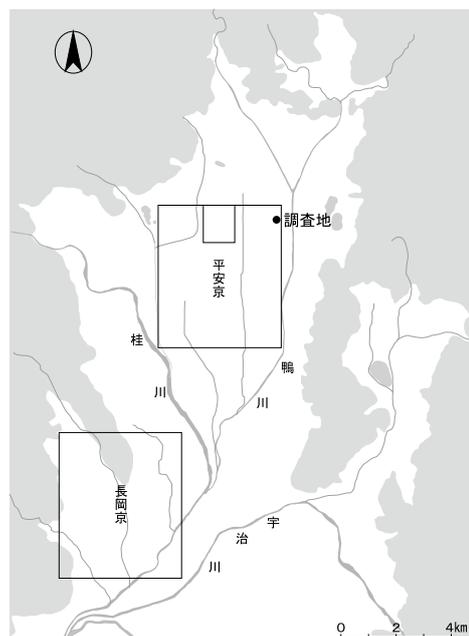
末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

平成28年3月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所  
所 長 井 上 満 郎

# 例 言

- 1 遺 跡 名 公家町遺跡・平安京跡（文化財保護課番号 14 H 067）
- 2 調査所在地 京都市上京区京都御苑3
- 3 委 託 者 株式会社熊倉工務店 代表取締役 熊倉 淳
- 4 調査期間 2015年9月7日～2015年12月8日
- 5 調査面積 500㎡
- 6 調査担当者 持田 透
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「相国寺」・「御所」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。  
遺構規模を表す数値のうち（ ）は検出範囲である。
- 12 遺物番号 土器類、瓦類にそれぞれ通し番号を付した。  
遺物の時期は、小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」（『研究紀要』第3号 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1996年）を参考にした。
- 13 本書作成 持田 透
- 14 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。



(調査地点図)

# 目 次

|            |    |
|------------|----|
| 1. 調査経過    | 1  |
| 2. 位置と環境   | 2  |
| (1) 位置と環境  | 2  |
| (2) 周辺の調査  | 4  |
| 3. 遺 構     | 7  |
| (1) 基本層序   | 7  |
| (2) 遺構の概要  | 7  |
| (3) 第1面    | 10 |
| (4) 第2面    | 10 |
| (5) 第3面    | 15 |
| (6) 第4面    | 15 |
| (7) 断割調査   | 21 |
| 4. 遺 物     | 22 |
| (1) 遺物の概要  | 22 |
| (2) 土器類    | 22 |
| (3) 瓦類     | 23 |
| (4) その他の遺物 | 24 |
| 5. ま と め   | 25 |

# 図 版 目 次

|     |    |                               |
|-----|----|-------------------------------|
| 図版1 | 遺構 | 第1面平面図 (1:200)                |
| 図版2 | 遺構 | 第2面平面図 (1:200)                |
| 図版3 | 遺構 | 第3面平面図 (1:200)                |
| 図版4 | 遺構 | 第4面平面図 (1:200)                |
| 図版5 | 遺構 | 地下道170実測図 (1:50)              |
| 図版6 | 遺構 | 遺構変遷図 (絵図合成、1:300)            |
| 図版7 | 遺物 | 土器実測図1 (1:4、4~12は1:2)         |
| 図版8 | 遺物 | 土器実測図2 (1:4、67は1:6、69~71は1:2) |
| 図版9 | 遺物 | 瓦拓影及び実測図 (1:4)                |

- 図版10 遺構 1 調査区北半全景 第1面（北から）  
 2 調査区南半全景 第1・2面（北東から）
- 図版11 遺構 1 建物1（御車舎、北から）  
 2 溝315（東から）  
 3 調査区北半全景 第2面（北から）
- 図版12 遺構 1 土坑144・樋159（西から）  
 2 土坑143（北東から）  
 3 地下道170（北東から）  
 4 地下道190（南から）
- 図版13 遺構 1 調査区北半全景 第3面（北から）  
 2 調査区南半全景 第3・4面（北から）
- 図版14 遺構 1 調査区北半全景 第4面（北から）  
 2 溝260・堀1（南西から）  
 3 土坑410（北東から）
- 図版15 遺構 1 溝441（北から）  
 2 埋甕450（北から）  
 3 堀基礎453（北から）
- 図版16 遺物 溝260・土坑222出土土器類
- 図版17 遺物 瓦類
- 図版18 遺物 墨書土器赤外線写真

## 挿 図 目 次

|     |                            |    |
|-----|----------------------------|----|
| 図1  | 調査地位置図（1：10,000）           | 1  |
| 図2  | 調査区配置図（1：1,000）            | 2  |
| 図3  | 調査前全景（北東から）                | 2  |
| 図4  | 調査風景（南西から）                 | 2  |
| 図5  | 明治18年の御所近辺絵図               | 3  |
| 図6  | 周辺調査位置図（1：5,000）           | 5  |
| 図7  | 調査区北壁断面図（1：50）             | 8  |
| 図8  | 調査区東壁断面図（1：50）             | 9  |
| 図9  | 建物1（御車舎）・建物2（土蔵）実測図（1：100） | 11 |
| 図10 | 地下道190実測図（1：50）            | 12 |

|     |  |    |
|-----|--|----|
| 図11 | 土坑143・144、樋159実測図（1：50）                    | 12 |
| 図12 | 溝315実測図（1：50）                              | 13 |
| 図13 | 土坑196・222・231・242・243・259・389・410実測図（1：50） | 14 |
| 図14 | 埋甕450実測図（1：50）                             | 15 |
| 図15 | 溝260・塀1実測図（1：60）                           | 17 |
| 図16 | 溝441実測図（1：60）                              | 18 |
| 図17 | 溝452実測図（1：60）                              | 19 |
| 図18 | 断割調査位置図（1：200）                             | 20 |
| 図19 | 塀基礎453実測図（1：50）                            | 21 |
| 図20 | 宝永大火前後の御所・公家町の地割変化（縮尺不同）                   | 25 |
| 図21 | 女御（皇后）・天皇（上皇）と女院御所（大宮御所）年表                 | 26 |
| 図22 | 築地塀推定位置図（宝永大火前、1：3,000）                    | 27 |
| 図23 | 京都御所の下向                                    | 28 |
| 図24 | 建物1（御車舎）の基礎                                | 29 |
| 図25 | 京都御所の御車舎                                   | 29 |

## 表 目 次

|    |         |    |
|----|---------|----|
| 表1 | 周辺調査一覧表 | 4  |
| 表2 | 遺構概要表   | 7  |
| 表3 | 遺物概要表   | 22 |
| 表4 | 土器類観察表  | 31 |
| 表5 | 瓦類観察表   | 34 |



# 平安京左京一条四坊九町跡・公家町遺跡

## 1. 調査経過

京都大宮御所の参観者休所棟の新築工事が宮内庁によって計画され、工事に先立って京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「京都市保護課」という）が試掘調査を行い、遺跡の存在が確認されたため発掘調査の実施が必要との指導が行われた。計画建物工事によって破壊される埋蔵文化財は設計地盤高より0.45mの深さ（標高48.78m）までとなり、以下の埋蔵文化財には影響が及ばないため、京都市保護課によって発掘調査による掘削にも制限が設けられた。最終的な検出面の掘削高は実際の地表面からは0.22～0.50mを測る。

発掘調査に先立って既存の建物（奉仕団休所棟、工作所、喫煙所など）が解体・撤去され、計画建物範囲にある樹木も伐採・抜根された。解体及び撤去は京都市保護課の立会いのもと行われた。

発掘調査面積は500㎡を測り、掘削土置き場を確保するため北側と南側に分けて反転調査とし



図1 調査地位置図（1：10,000）

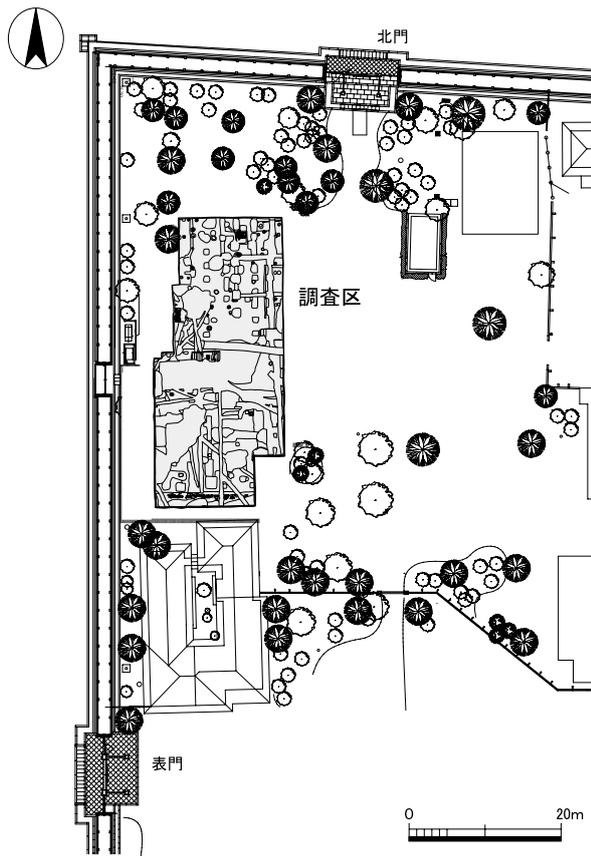


図2 調査区配置図（1：1,000）



図3 調査前全景（北東から）



図4 調査風景（南西から）

た。調査は平成27年9月10日から表土掘削を開始し、4面の調査を行った。遺構面ごとに京都市保護課の検査を受け、平成27年12月8日に終了した。なお、10月20日に宮内庁職員向けに調査成果の説明会を現地で行い、約20名の参加者があった。

## 2. 位置と環境

### (1) 位置と環境

京都大宮御所<sup>1)</sup>は京都御苑内にあり、京都御所の南東に位置する。京都御苑は京都市中心部のやや北側で今出川通、烏丸通、丸太町通、寺町通に囲まれる東西約700m、南北約1300mを測る国民公園である<sup>2)</sup>。大宮御所は築地塀で囲まれた敷地のうち北西の御常御殿を中心とする施設である。南東側に広がる庭園は、江戸時代の仙洞御所の跡地であり、主要な建物は天明8年（1788）の大火によって焼失し、再建されていない。現存する大宮御所は慶応3年（1867）に造営されたもので、明治13年（1880）に大部分を解体し、残された御常御殿を改築したものである。周辺の自然地形は京都御苑の東を流れる鴨川の扇状地で、人為的造成と洪水による土砂供給の繰り返しによって平安時代中期以降に地盤が高くなっていったとされる<sup>3)</sup>。

当地は、平安京の条坊では左京一条四坊九町にあたる。北は土御門大路、南は鷹司小路、西は万

里小路、東は富小路に面し、藤原道長の妻倫子の邸宅とされる鷹司殿があった。東隣りは土御門殿で、藤原道長の時代には南の一町を加えた二町分の邸宅となり、後一条、後朱雀、後冷泉ら三代の天皇の里内裏でもあった<sup>4)</sup>。南北朝時代に光厳天皇が土御門東洞院に内裏を移し、足利義満、織田信長、豊臣秀吉らによって周辺も含めて整備された。また、当地は豊臣秀吉が慶長2年(1597)に建てたとされる、京都新城<sup>5)</sup>の比定地でもあり、慶長5年(1600)の関ヶ原合戦までは秀吉の妻・高台院が居住していた。京都新城はもともと「北土御門通ヨリ南へ六町、東ハ京極ヨリ西へ三町」(『言経卿記』)とされる広さであったものが関ヶ原合戦前後には石垣や門などが撤去され、また慶長7年(1602)には「初秀吉之館在京極朱雀、神君毀之、而移造二條城」(『続本朝通鑑』)とあるように建物を取り壊して二条城に移築したとされる。慶長期の公家町を描いた『中むかし公家町の絵図』(京都府立資料館蔵)や『慶長年間御築地内之図』(山本臨乘氏蔵)には「高台院殿」の記載があり、内裏よりも広大な敷地を有している<sup>6)</sup>。

現在の大宮御所は後水尾天皇と東福門院の御所造営に始まる。寛永4年(1627)に院政を始めた後水尾上皇は、院庁御所として仙洞御所と皇后のための女院御所を御所の南東に造営する。敷地は高台院の後、甥の木下利房が居住していた屋敷地を利用し、南側に仙洞御所、北西側に女院御所が配置された。仙洞御所、女院御所は上皇や皇后のための御所で、上皇や皇后が存在しない期間は取り壊され苑地となっており、江戸時代を通じて4回ほど苑地となっていた。しかし主な建て替えの契機は火災であり、女院御所は明治までの約240年間で9度の造営が行われたうち、焼失が6度にわたる(図21)。この中で宝永5年(1708)に起きた大火によって焼失した後に行われた公家町再編<sup>7)</sup>では、築地塀を挟んで北側に隣接していた鷹司家や九条家などの土地を取り込み、敷地を隔てていた築地塀を取り払って仙洞御所・女院御所の敷地が大きく変更された。それに伴い女院御所の位置が従来よりも北側に建てられた。このように江戸時代を通じて御所の南東地は上皇と皇后のための御所造営地として利用され、最後に造営されたのが慶応3年(1867)に英照皇后のために建てられた御所であった<sup>8)</sup>。

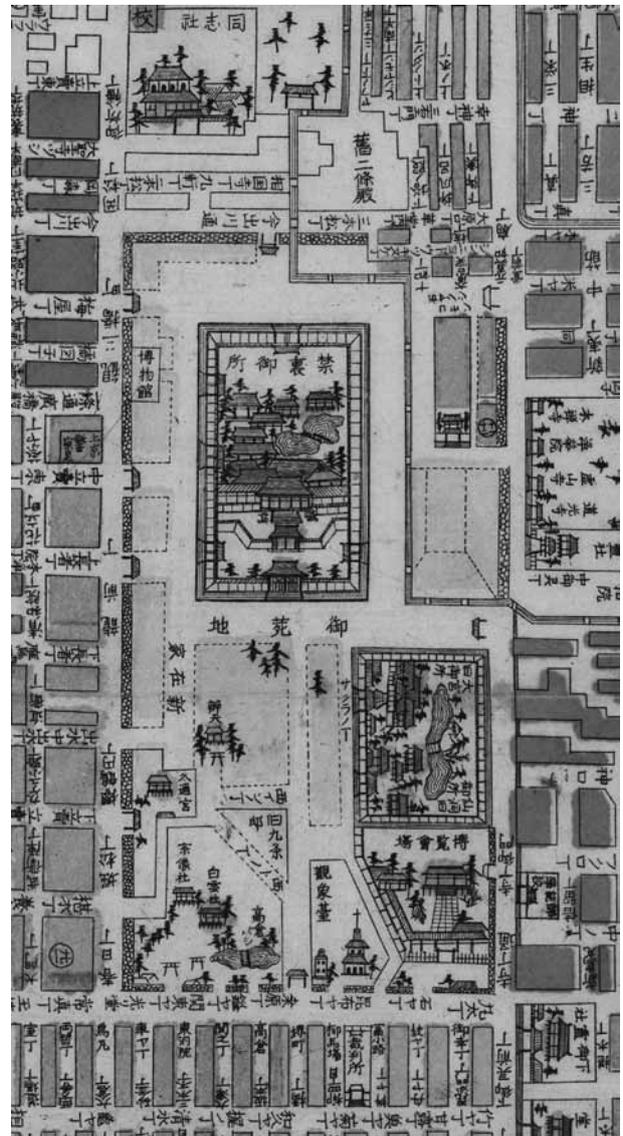


図5 明治18年の御所近辺絵図  
「改正新板京都区組明細図」国際日本文化研究センター所蔵

しかし明治2年(1869)の東京鄭都後、御所や公家町は居住者が不在となり荒廃してしまう。これを憂いた明治天皇の命により旧御所や旧公家町を公園整備する目的で明治10年(1877)から大内保存事業<sup>9)</sup>が行われ、現在みられる京都御苑の形となった<sup>10)</sup>。仙洞御所・大宮御所は西側築地塀を約40m東に後退し、京都御所東を通る幅30mの道が南北に一直線に通るように改変された。明治13年(1880)に取り壊された大宮御所の跡地には土蔵や番所などの施設が建設された。今回の調査地及び調査地周辺では、土蔵2棟と御門番所、侍、詰所が建てられている。大正4年(1915)には2棟の土蔵のうち西側の土蔵が取り壊され、京都御所にあった御車舎<sup>11)</sup>が移築された。昭和3年(1928)には御車舎と土蔵が撤去され、御車舎は京都御所に戻され、土蔵は上賀茂神社に下賜された。跡地には奉仕団休所棟などが建築され、北側の塀に新しく門が新造された。ちなみに大正及び昭和の建て替えなどは大正天皇・昭和天皇の即位に関わる大礼時に行われた。

## (2) 周辺の調査 (図6、表1)

これまでの大宮御所内の調査は、御常御殿に敷設された事務棟の耐震補強工事に伴う調査(調査1)以外は工事の際の立会調査に限られる。立会調査では石組溝などが確認されている(立会1～

表1 周辺調査一覧表

| 番号  | 調査概要   | 文 献   |
|-----|--|---|
| 1   | 江戸時代後半の土坑を検出。  | 木下保明『平安京左京一条四坊九町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-14 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2006年                 |
| 2   | 飛鳥時代以前の流路、平安時代の苑池・道路、鎌倉時代の地業・道路、室町時代の堀、桃山時代から江戸時代の公家町の成立と変遷をたどる遺構群を検出。 | 『平安京左京一条四坊』京都埋蔵文化財研究所調査報告第22冊 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2004年                               |
| 3   | 江戸時代前半の鷹司邸の築地や土蔵を検出。   | 東 洋一「平成14年度発掘調査」『平安京左京一条四坊九町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-8 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2002年      |
| 4   | 江戸時代中頃の礎石建物、江戸時代後半の道路を検出。  | 鈴木久男・西村洋子「平成13年度発掘調査」『平安京左京一条四坊九町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-8 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2002年 |
| 5   | 寛政度造営の築地を検出。   | 長戸満男「平安京左京一条四坊」『平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2000年                         |
| 6   | 江戸時代中頃から後期の建物を検出。  | 小松武彦『平安京左京北辺一条四坊一町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-9 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2012年                |
| 7   | 江戸時代の建物を検出。  | 小松武彦『平安京左京北辺一条四坊一町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2013-12 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2013年               |
| 立会1 | 近世の東西溝・石組の南北溝を検出。  | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成11年度』京都市文化市民局 2000年   |
| 立会2 | 地表下30cmで近世の包含層、地表下50cmで平安時代から鎌倉時代の遺物包含層を検出。                            | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成12年度』京都市文化市民局 2001年   |
| 立会3 | 地表下35cmまで現代盛土。   | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成13年度』京都市文化市民局 2002年   |
| 立会4 | 江戸時代前期の流れ堆積、江戸時代中期・末期の焼土層を検出。  | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成13年度』京都市文化市民局 2002年   |
| 立会5 | 地表下20cmで焼土を含む整地層を検出。   | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成13年度』京都市文化市民局 2002年   |

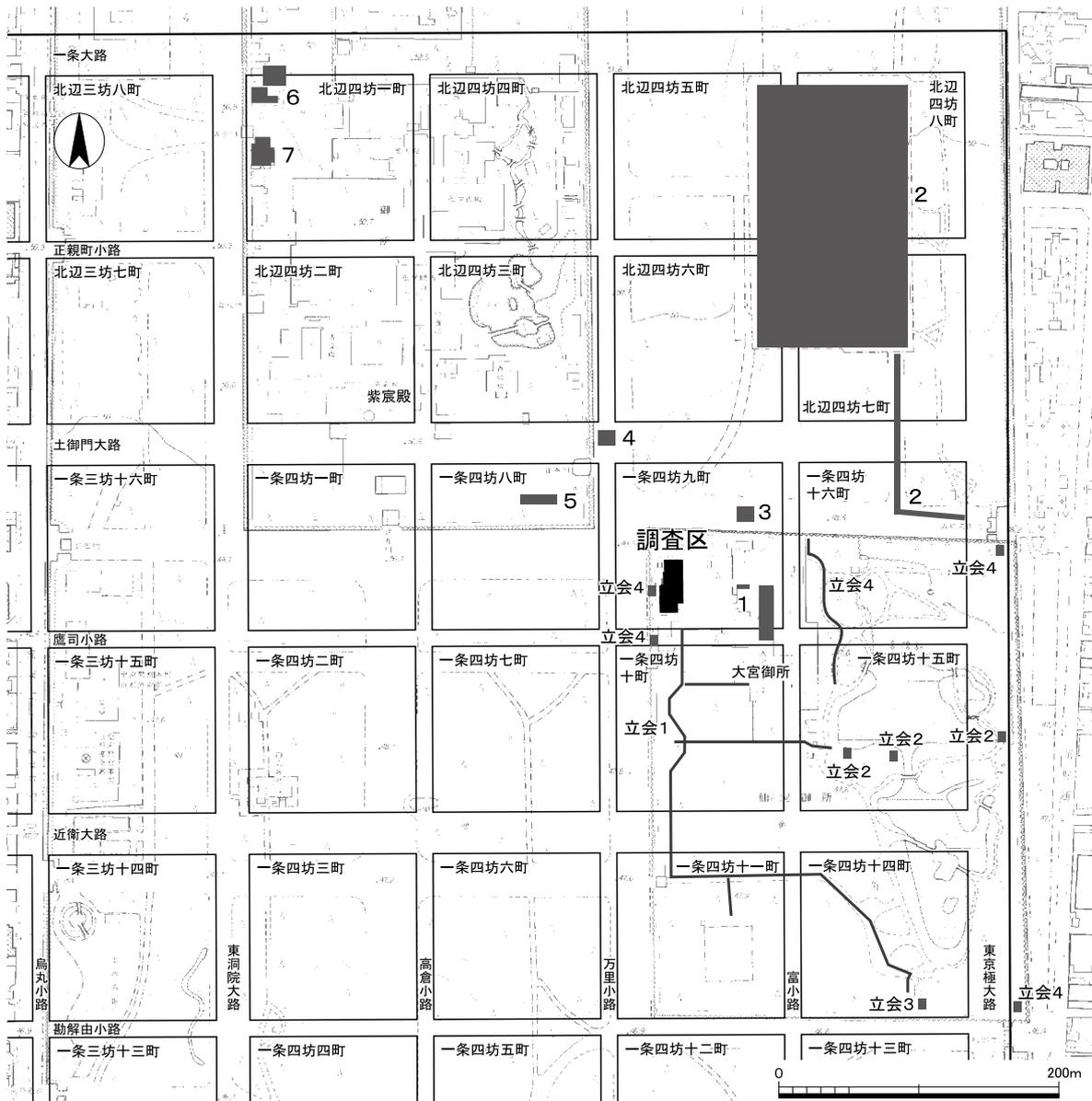


図6 周辺調査位置図 (1 : 5,000)

5)。調査1の際も掘削制限の関係から顕著な遺構を確認することができなかった。周辺をみると大宮御所北側に接する広小路における調査(調査3)では江戸時代前半の鷹司家の北東敷地境界が確認されている。迎賓館の建設に伴う調査では南側で行った細く長いトレンチ調査において、江戸時代の堆積層が1 m以上あることが判明している(調査2)。このように大宮御所内での発掘調査はこれまでほとんど行われていないため、今回の調査の成果が期待された。また今回の発掘調査と同時期に給水管・電気などの工事に伴う立会調査が行われた。

註

- 1) 大宮御所という呼び名は慶応度建物からみられ、それ以前は女院御所や皇后御所などの表記がみられる。大宮というのは宮中の女性一般を呼びならわす言葉で、江戸時代後半ごろに皇后をさす言葉となったとされる。

- 2) 京都御苑は環境省の管理で約650,000㎡、京都御所と大宮御所は宮内庁の管理で約210,000㎡、その他迎賓館や各省事務所などが約50,000㎡である。京都御所は東西約250m、南北で約450m、仙洞・大宮御所は東西約270m、南北約350mを築地塀で囲まれている。
- 3) 河角龍典「平安京における地形環境変化と都市的土地利用の変遷」考古学と自然科学第42号 2000年
- 4) 古代学協会編『平安京提要』角川書店 1994年
- 5) 慶長年間の記録では、「太閤御所屋敷」・「新城太閤御所」・「秀頼新宅」・「京都城」（『義演准后日記』）、「太閤御屋敷」・「秀頼卿御城」（『言経卿記』）、「京之城」（『瞬旧記』）などの記載がみられる。
- 6) 内藤昌・湯浅耕三『豊臣家京都新城－武家地の建築（近世都市図屏風の建築的研究－洛中洛外図・その6－）』日本建築学会大会学術講演梗概集 1972年
- 7) 宝永の大火を契機にして、御所や公家町・町屋・寺社などの敷地を大きく変更された。小路を広く設けたり、空地（明地）を設けて、火事による類焼防止を目的とした。冷泉為人「公家町の災害と防災－内裏（仙洞・大宮）御所をめぐる－」『歴史災害と都市－京都・東京を中心に－』立命館大学・神奈川大学 2007年
- 8) 第121代孝明天皇女御。旧名九条<sup>あきこ</sup>夙子。生没は天保5年（1835）から明治30年（1897）。
- 9) 明治4年（1871）に九門の警備を解除して以来、御所周辺では一般民衆の立ち入りが自由となった。明治6年（1873）から毎年、御所や仙洞御所の庭園で博覧会（動植物園）が行われ、外国人も多くの来館があったという。また旧有栖川宮邸を利用した京都裁判所や旧准后仮御所を師範学校に利用するなど新しい施設が置かれたりするなどした。公家宅を借り受けて料理屋を開いたり、跡地を開墾するものなどが現れて景観が大きく変貌していた。大内保存事業は御所を永く保存するためにこれらの諸施設を整理するために明治10年（1877）から明治13年（1880）までの間、民地の買い上げや植樹、道路や周囲の石垣整備が行われた。明治16年（1883）に宮内庁の管轄となって一般人の立ち入りが制限されたが第二次世界大戦後に再び解放された。大内とは大内裏を表す異称である。森忠文「明治初期における京都御苑の造成について」『造園雑誌』41 日本造園学会 1978年
- 10) 建礼門より南の幅35mの通路は大正天皇の大礼時に整備されたものである。なお、昭和の大礼時には即位式に利用する施設が御所東に建設され、のちに解体されグラウンドになっていたが、京都迎賓館の建設に先立つ発掘調査によって当時の基礎跡が検出された（調査2）。
- 11) 現在京都御所では「おくるまやどり」と呼ばれる牛車を収納しておく建物である。現在御所に移築された御車舎は3台の牛車を収納することができる。江戸時代の絵図をみると「御車宿」と表記がみられる。

### 3. 遺 構

#### (1) 基本層序

調査地の表土は奉仕団休所棟などの解体・撤去にともなって攪乱されていたが、東壁付近では表層の0.05mが砂利敷きとなっていた。調査区北壁では焼土を一定量確認できる火災処理層（図7-15・16層）と考えられる層が確認できる。また後述する断割調査の壁面観察から、第4面の遺構面とした褐色泥砂（図8-44層）の下層に焼土層（図8-46層）が明瞭に確認できる。

堅く締まったにぶい黄橙色泥砂（図7-8層）の上面で確認した遺構は明治時代前期から昭和時代に相当し、第1遺構面とした。黄褐色泥砂層（図7-12層）の上面で確認できた遺構は江戸時代後期から末期（幕末）で、第2遺構面とした。浅黄色泥砂層（図7-17層）の上面で確認した遺構は江戸時代後期（文化年代）で、第3遺構面とした。褐色泥砂層（図7-21層）の上面で検出した遺構は江戸時代中頃（宝永の大火後）で、第4遺構面とした。第4遺構面と制限掘削深度（標高48.78m）がほぼ同じであった。今回の調査では火災処理層を2層確認できた。上層（図7-15・16層）は天明の大火（1788年）、下層（図8-46層）は宝永の大火（1708年）と考えられる。嘉永の大火（1854年）を示す火災処理層は確認できなかった。ただし嘉永の大火に伴う被熱遺構（地下道170・190）を確認した。なお、調査地は南側に傾斜していたため、調査区南端は表土層直下が掘削制限深度となった。そのため、反転調査の南半では遺構の残存が少なく遺構面2面の調査となった。出土した遺物などを基に北半の4面分との対応面を整理した。

#### (2) 遺構の概要

今回の調査で検出した遺構は、江戸時代の女院御所施設と明治時代以降の建物である。掘削深度制限（標高48.78m）までの調査で4面の遺構面を確認した。なお、遺構の性格を把握するために一部の遺構（溝260、地下道170、土坑144、埋甕450）は京都市保護課と協議して制限深度を超えて掘削した。

また、周辺の立会調査の結果から、築地塀と考えられる塀基礎が調査地を東西に横断する可能性

表2 遺構概要表

| 時 代           | 遺 構  | 備 考        |
|---------------|--|------------|
| 江戸時代中頃        | 土坑196・222・231・242・243・259・296・389・410、溝260・441・452、埋甕450、塀1、塀基礎453 | 第3・4面、断割調査 |
| 江戸時代後半<br>～幕末 | 土坑143・144・387、地下道170・190、溝315、樋159                                 | 第2面        |
| 明治時代<br>～大正時代 | 建物1（御車舎）、建物2（土蔵）   | 第1面        |

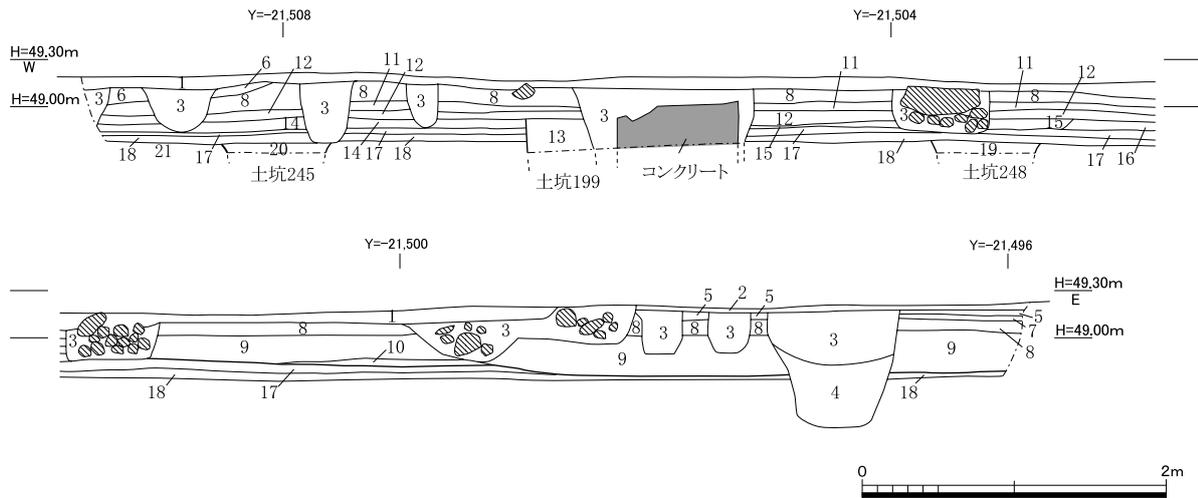


図7 調査区北壁断面図（1：50）

調査区北壁土層名（図7）

- |                                      |  |
|--------------------------------------|--|
| 1 10YR3/3暗褐色泥砂 [攪乱]                  | 12 10YR5/6黄褐色泥砂 [江戸時代(文化度)整地]            |
| 2 10BG6/1青灰色小礫 砂利舗装 [昭和時代整地]         | 13 10YR4/8にぶい黄褐色泥砂 [土坑199埋土]             |
| 3 10YR3/3暗褐色泥砂 [配管・コンクリート基礎攪乱]       | 14 10YR4/3にぶい黄褐色泥砂 焼土若干含む [江戸時代(文化度)整地]  |
| 4 2.5Y8/6黄色細砂 [配管攪乱]                 | 15 10YR5/4にぶい黄褐色泥砂 粗砂・焼土含む [江戸時代火災処理層]   |
| 5 10YR5/6黄褐色泥砂 [大正時代整地]              | 16 10YR4/3にぶい黄褐色泥砂 焼土含む [江戸時代火災処理層]      |
| 6 10YR4/3にぶい黄褐色泥砂 [大正時代整地]           | 17 2.5Y7/4浅黄色泥砂 焼土・炭やや多く含む [江戸時代(延享度)整地] |
| 7 10YR4/4にぶい黄褐色泥砂 [明治時代整地]           | 18 10YR5/8黄褐色泥砂 焼土若干含む [江戸時代(延享度)整地]     |
| 8 10YR6/4にぶい黄褐色泥砂 [明治時代整地]           | 19 5YR4/8赤褐色泥砂 [土坑248埋土]                 |
| 9 10YR4/3にぶい黄褐色シルト [土坑161埋土]         | 20 5YR4/8赤褐色泥砂 [土坑245埋土]                 |
| 10 10YR4/3にぶい黄褐色泥砂 粗砂含む [土坑161埋土]    | 21 10YR4/4褐色泥砂 焼土含む [江戸時代(宝永度)整地]        |
| 11 10YR3/3暗褐色泥砂 焼土少量含む [江戸時代(慶応度)整地] |  |

調査区東壁土層名（図8）

- |   |   |
|---|---|
| 1 10BG6/1青灰色小礫 砂利舗装 [昭和時代]                      | 25 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 φ5~10cmの礫含む [溝260埋土]     |
| 2 10YR2/2黒褐色泥砂 [大正時代整地]                         | 26 10YR4/4褐色泥砂 砂混じり [溝260埋土]                |
| 3 10YR2/1黒褐色泥砂 [配管攪乱]                           | 27 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 [溝260抜取痕]                |
| 4 10YR2/1黒褐色泥砂 締め弱い [土坑240埋土]                   | 28 10YR3/3暗褐色砂泥 [溝260抜取痕]                   |
| 5 10YR3/4暗褐色泥砂 [配管攪乱]                           | 29 10YR6/2灰黄褐色泥砂 [溝260抜取痕]                  |
| 6 10YR3/3暗褐色泥砂 [配管攪乱]                           | 30 10YR7/4にぶい黄褐色泥砂 [江戸時代整地]                 |
| 7 10YR3/4暗褐色泥砂 [溝10(御車舎基礎)埋土]                   | 31 10YR2/2黒褐色泥砂 [攪乱]                        |
| 8 10YR3/4暗褐色泥砂 [溝70(御車舎基礎)埋土]                   | 32 10YR3/2黒褐色泥砂 [配管攪乱]                      |
| 9 10YR4/3にぶい黄褐色泥砂 固く締まる [タタキ]                   | 33 2.5YR3/2黒褐色泥砂 [配管攪乱]                     |
| 10 10YR4/3にぶい黄褐色泥砂 φ5~15cmの礫含む [溝17(土蔵基礎)埋土]    | 34 10YR4/2灰黄褐色泥砂 [配管攪乱]                     |
| 11 10YR4/3にぶい黄褐色泥砂 φ5~15cmの礫多く含む [溝226(土蔵基礎)埋土] | 35 2.5Y3/2黒褐色泥砂 [大正時代から明治時代整地]              |
| 12 10YR3/2黒褐色泥砂 締め弱い                            | 36 10YR2/2黒褐色泥砂 土器片・炭少量含む [配管攪乱]            |
| 13 10YR3/2黒褐色泥砂 [明治時代整地]                        | 37 10YR3/3暗褐色泥砂 [配管攪乱]                      |
| 14 10YR3/4暗褐色泥砂 [明治時代整地]                        | 38 10YR3/2黒褐色泥砂 [配管攪乱]                      |
| 15 10YR4/3にぶい黄褐色シルト [土坑161埋土]                   | 39 10YR3/4暗褐色泥砂 [慶応度または文化度整地]               |
| 16 10YR3/3暗褐色泥砂 締め弱い 瓦を多量含む [地下道190埋土]          | 40 10YR3/4暗褐色泥砂 [土坑387埋土]                   |
| 17 10YR3/3暗褐色泥砂 焼土少量含む [江戸時代(慶応度)整地]            | 41 10YR3/3暗褐色泥砂 [土坑387埋土]                   |
| 18 10YR4/3にぶい黄褐色泥砂 [江戸時代(文化度)整地]                | 42 10YR3/2黒褐色泥砂 [溝315掘形]                    |
| 19 10YR4/2灰黄褐色泥砂 φ5~15cmの礫を多く含む [土坑261埋土]       | 43 10YR4/2灰黄褐色泥砂 [江戸時代(延享度)整地]              |
| 20 10YR4/3にぶい黄褐色泥砂 焼土含む [江戸時代火災処理層]             | 44 10YR3/2黒褐色泥砂 炭含む [江戸時代(宝永度)整地]           |
| 21 10YR3/3暗褐色泥砂 [土坑367埋土]                       | 45 10YR4/3にぶい黄褐色泥砂 [江戸時代(宝永度)整地]            |
| 22 10YR3/2黒褐色泥砂 焼土若干含む [江戸時代(延享度)整地]            | 46 10YR4/2灰黄褐色泥砂 焼土多く含む 土器片少量 [江戸時代(宝永度)整地] |
| 23 10YR3/4褐色泥砂 φ5~20cmの礫多く含む [土坑258埋土]          |   |

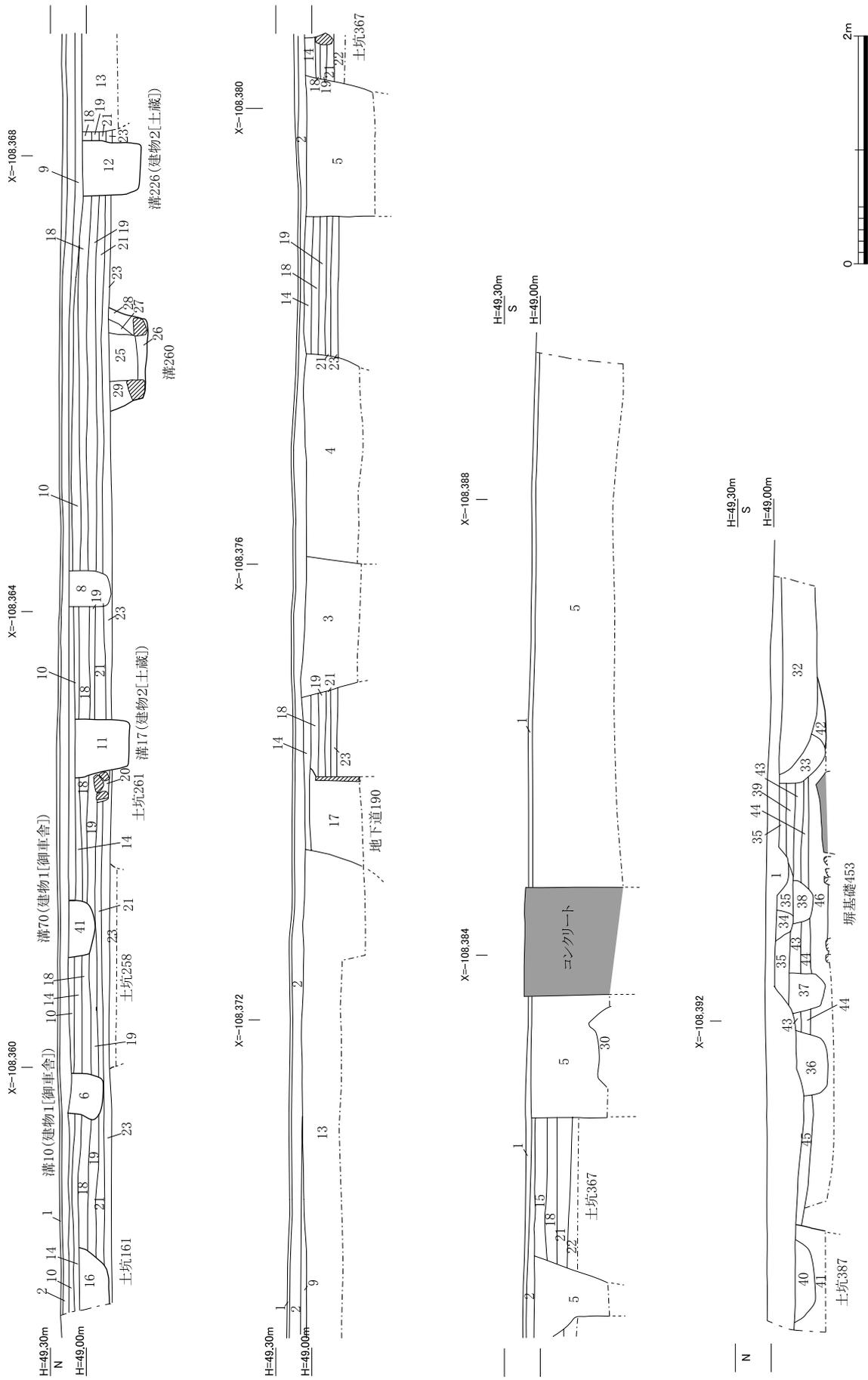


図8 調査区東壁断面図 (1 : 50)

が高いことが今回の調査中に判明した。塀基礎は掘削制限深度よりも約0.1 m下にあることが想定されたため、京都市保護課と協議し、断割調査をして部分的に塀基礎の位置を確認することとなった。

### (3) 第1面 (図版1・10)

標高49.17～49.21 mで検出した遺構面で、明治時代から現代にかけての遺構を確認した。検出した遺構は建物基礎、土坑である。調査直前まで使用されていた奉仕団休所棟や附属建物の基礎解体工事、給排水管やガス・電気などの埋設管工事のため遺構面は大きく攪乱されていた。

**建物1 (御車舎)** (図9、図版11) 調査区北半で検出した、南北4間(8.78 m)×東西3間(6.42 m)以上の建物跡である。柱基礎は一辺0.95～1.12 m、深さ0.70 m以上を測る方形の掘形に拳大から人頭大の栗石を充填し、その上からコンクリートを流し込み立方体の柱基礎をつくっている。コンクリートの柱基礎は厚さ0.5～0.7 mを測り、その上に人頭大の川原石を礎石の根固めとして円状に配してモルタルで固めていた。柱穴は11基確認し、すべて同じ工法で設置されていた。北辺と西辺で柱同士をつなぐ幅0.47 mの溝7は布基礎の痕跡と考えられる。また、北と南西には柱より外側の1.60 m外側を溝10が「コ」の字に巡る。溝10は建物の外側に設けられた犬走の周縁と考えられる。建物1の南西部には溝10よりもさらに外周に直径0.24～0.26 mの小ピットが2列平行で巡っている。深さは0.10～0.15 mと浅い。植栽の痕跡の可能性が考えられる。

柱穴や溝からは土師器や陶磁器が出土したが、すべて混入品である。遺物から時期の特定はできないが、大正時代に御所から移築した、御車舎と考えられる。

**建物2 (土蔵)** (図9) 溝17・226によって構成される「コ」の字状の溝は、南北5.17 m、東西6.12 m以上を測る。埋土は黒褐色泥砂で拳大の礫を多く含んでいた。溝で囲まれる範囲の東側はタキによって固く締まっていた。

溝17・226からは土師器・陶磁器・瓦製品などが出土したが、混入品と考えられる。遺物から時期は特定できないが、前述の御車舎移築以前までは明治13年ごろに建てられた土蔵があったことが当時の絵図面から見てとれる。建物の規模・位置から明治時代の土蔵の基礎と考えられる。

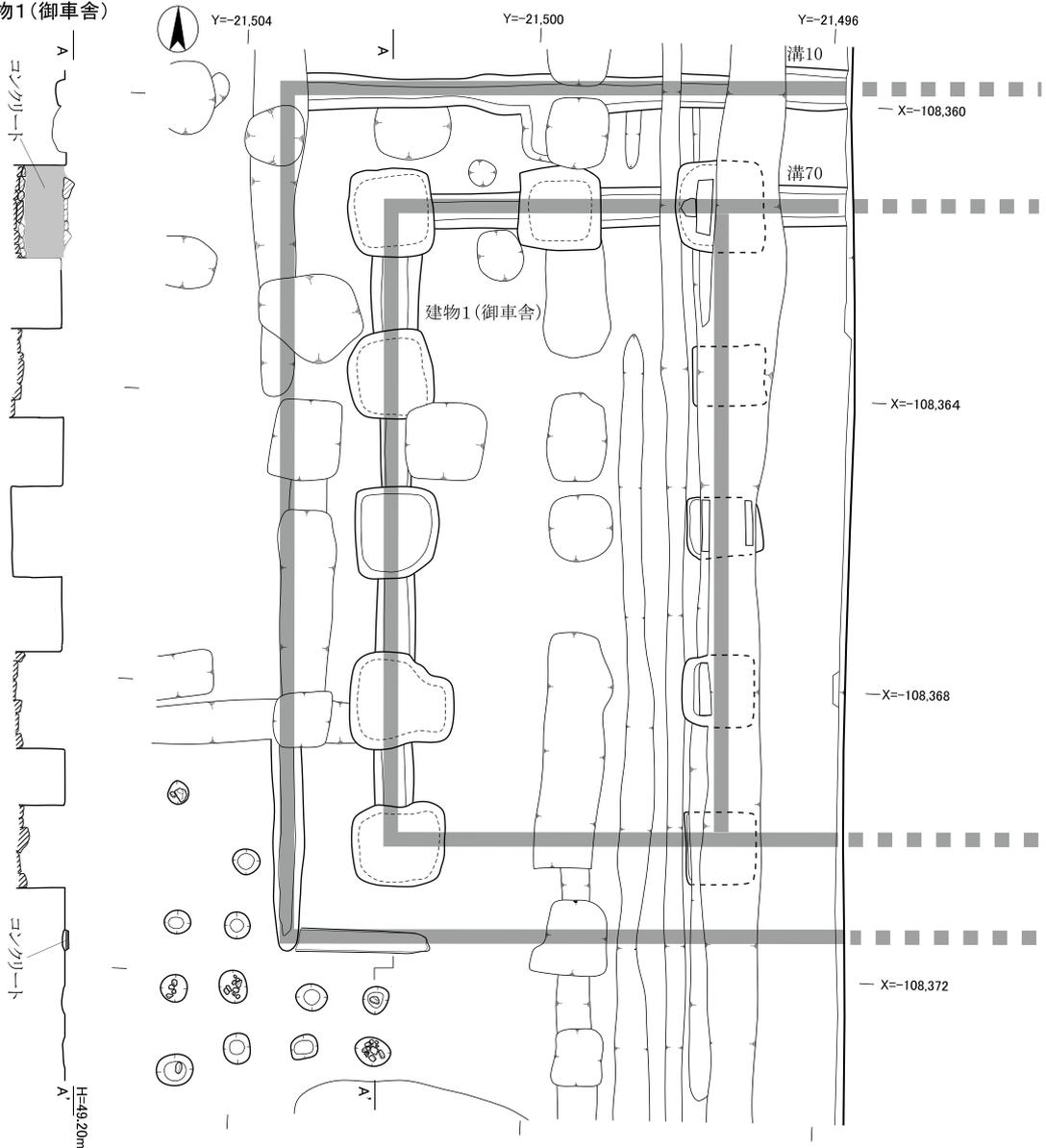
### (4) 第2面 (図版2・10・11)

標高49.00～49.05 mで検出した遺構面で、江戸時代後半から幕末にかけての遺構を確認した。検出した遺構は地下道、溝、土坑、柱穴である。

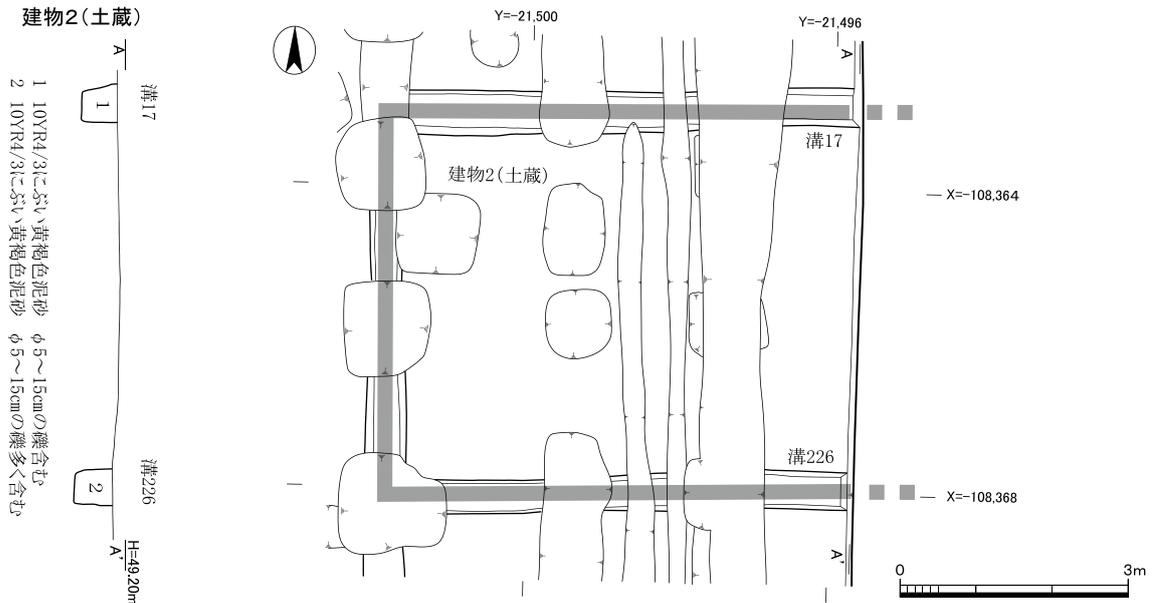
**地下道190** (図10、図版12) 調査区北半で検出した東西方向の漆喰製地下道である。南西側と北東側を壊されており、幅1.51 m、長さ3.05 mを検出した。深さ0.35 mまで掘削し、以下は未掘削である。階段は3段分まで確認した。埋土は黒褐色泥砂が堆積していた。

階段1段の幅は0.30 m、段差は0.20 mを測る。また階段部分は2重の漆喰が塗られていた。上層の漆喰は厚さ0.05 mで色調は灰白色で白色砂粒が多く含まれる(地下道190-1)。上層の漆喰を剥がすと明黄褐色で上層に比べるとろい漆喰が確認できる(地下道190-2)。下層の漆喰階段

建物1(御車舎)



建物2(土蔵)



溝17  
溝226  
H=49.20m  
A' A

1 10YR4/3に多い黄褐色泥砂 φ5~15cmの礫含む  
2 10YR4/3に多い黄褐色泥砂 φ5~15cmの礫多く含む

図9 建物1(御車舎)・建物2(土蔵)実測図(1:100)

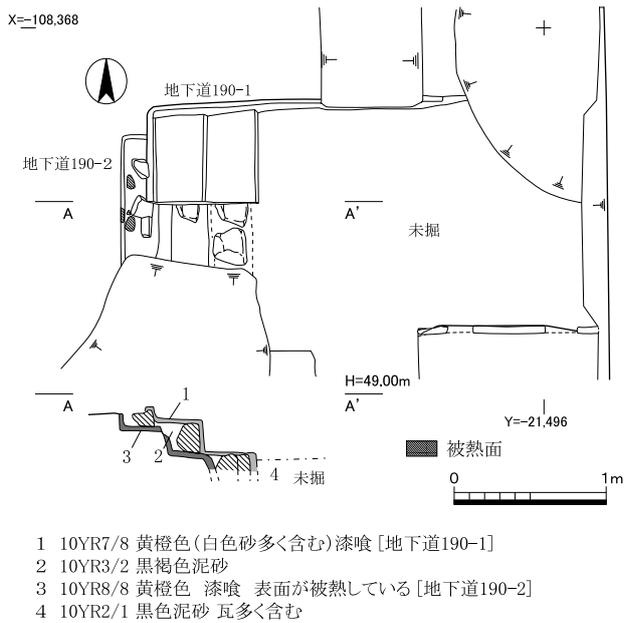


図10 地下道190実測図 (1:50)

m、長さ3.92mを検出した。西側では階段が4段あり、底面中央に延石で四角に囲まれた集石土坑がある。また底面東西両側に礎石と延石を南北に並べている。埋土は黒褐色泥砂が堆積していた。

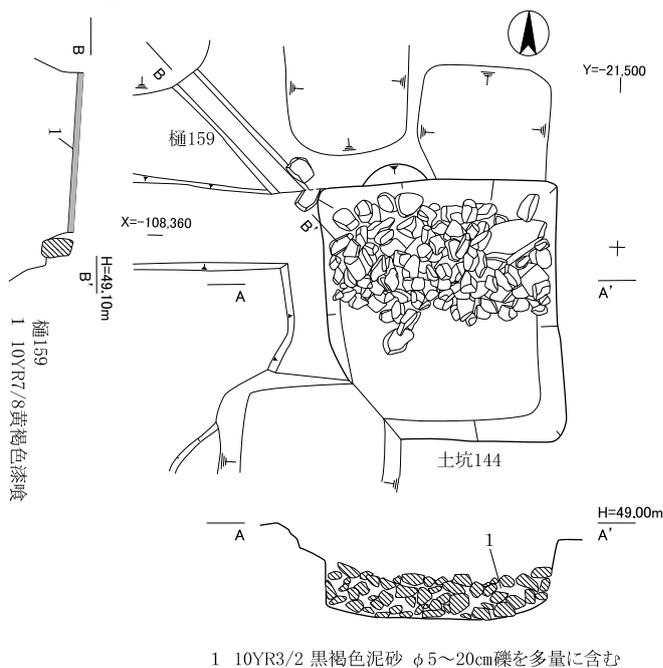
階段1段の幅は1段目が最も広く0.26mを測り、2～3段目は0.16～0.18m、段差は0.20mを測る。中央の土坑は東西0.20m、南北0.22mを測る隅丸方形土坑に拳大の栗石を充填している。延石で囲われている範囲は東西0.40m、南北0.48mを測る。礎石は一辺0.22mの平坦な割石である。中央土坑を中心に左右対称の構造と考えられ、推定全長は約4.4m、幅は約1.4m、深さは約1.1mに

の上に0.15～0.20mの割石を置き、上層の階段のステップを大きく嵩上げしていた。下層の漆喰は赤色に被熱した部分が多くみられる。なお、この地下道は絵図から復元するとクランクする地下道であると想定でき、東西方向の階段を下りると北側へ屈曲しその先で東側へ再度屈曲する構造となっていると考えられる。

埋土から瓦が多量に出土した。出土した遺物の時期は江戸時代後期から近代である。

地下道170 (図版5・12) 調査区北半で検出した東西方向の漆喰製地下道である。南側と東側を壊されており、幅0.84

土坑144・樋159



土坑143

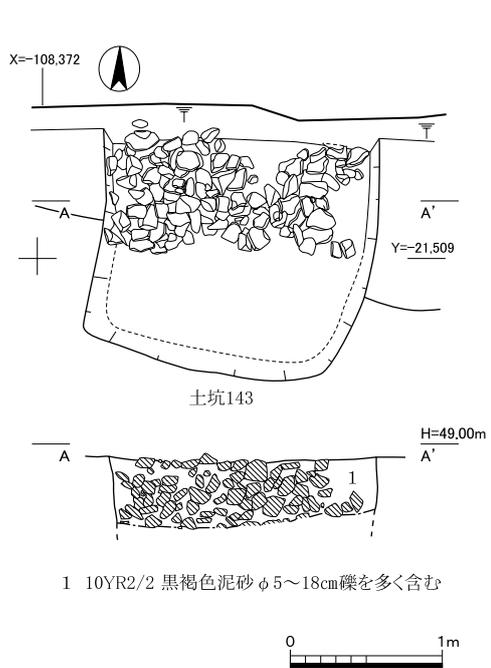


図11 土坑143・144、樋159実測図 (1:50)

復元できる。東側の礎石などは根の影響で原位置を保っていない可能性もあるが、礎石の心々は1.80mを測る。

また、地下道190と同様に階段部分は2重の漆喰が塗られていた。上層の漆喰は厚さ0.05～0.10mで色調は灰白色で白色砂粒が多く含まれる（地下道170-1）。上層の漆喰を剥がすと明黄褐色で上層に比べるとろい漆喰が確認できる（地下道170-2）。下層の漆喰は赤色に被熱した部分が多くみられる。

瓦が多く出土し、遺物の時期は江戸時代後期から近代である。

**土坑143**（図11、図版12） 調査区北半で検出した土坑である。南北1.71m、東西1.52m以上を測る方形の掘形で、拳大から人頭大の花崗岩の割石を詰めている。深さは0.40mまで確認した。石の隙間には黒褐色泥砂が堆積していた。地下に雨水を浸透させる集水榭と考えられる。土師器・陶磁器・瓦が出土した。出土した遺物は京都XIV期である。

**土坑144**（図11、図版12） 調査区北半で検出した土坑である。東西1.51m×南北1.75m、深さ0.55mを測る方形の掘形で、拳大から人頭大の花崗岩の割石や川原石を詰めている。石の隙間には黒褐色泥砂が堆積していた。地下に雨水を浸透させる集水榭と考えられる。土師器・陶磁器・瓦が出土した。出土した遺物は京都XIV期である。

**樋159**（図11、図版12） 調査区北半で検出した北西から南西方向の漆喰製の樋である。半円筒状に成形されており、幅は0.15m、長さは1.00mを確認した。土坑144に向かって傾斜しているため、土坑144に向かう導水施設であると考えられる。遺物の出土はない。

**溝315**（図12、図版11） 調査区南端で検出した石組溝である。攪乱によって大きく壊されているが、検出長は12.0mである。内側を整えた側石を置き、底面に割り石を敷き詰めている。底石の上面は東端と西端でほとんど標高差がなくほぼ水平であった。使用している石材は花崗岩である。南側の側石の残存がないが、掘形や側石を支える石の位置から、溝の幅は内法で幅0.32m、深さ0.25mを測る。使用されている割り石の大きさは側壁側が31～42cm、底面に敷き詰められて

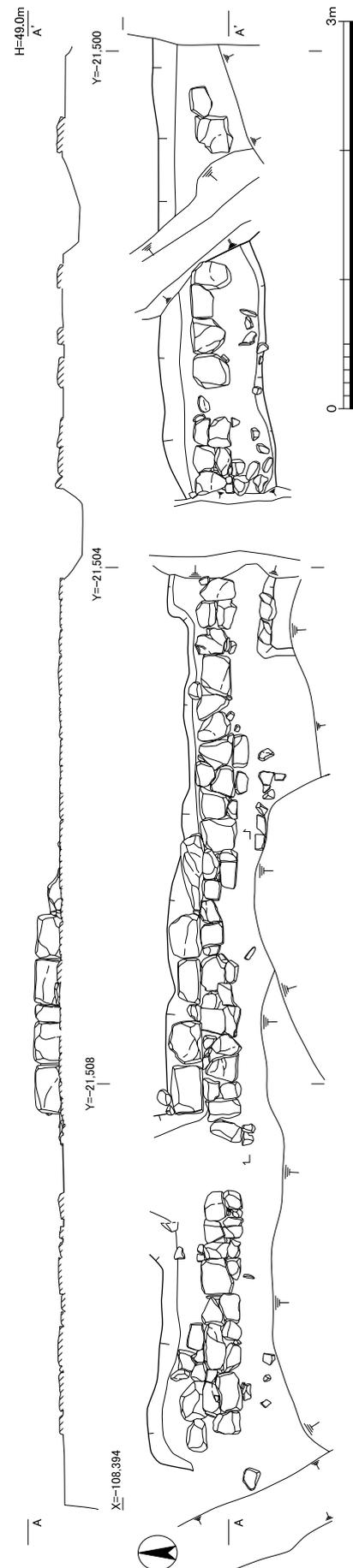
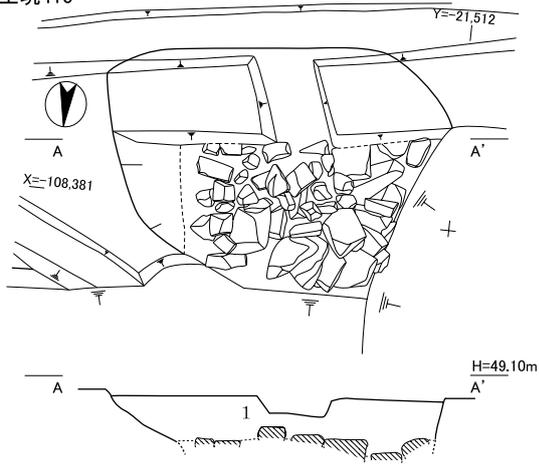


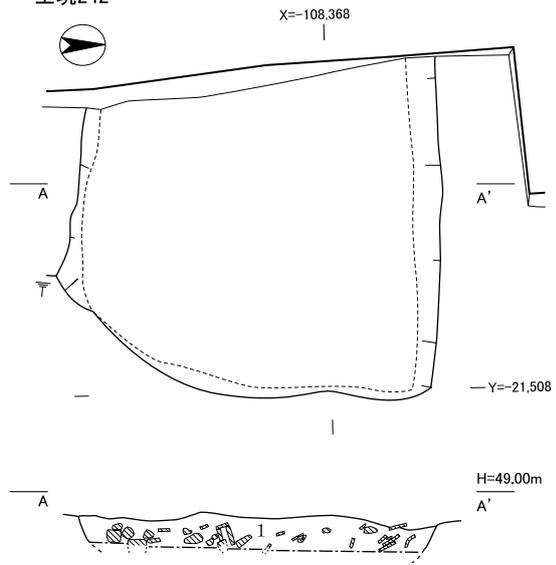
図12 溝315実測図（1：50）

土坑410



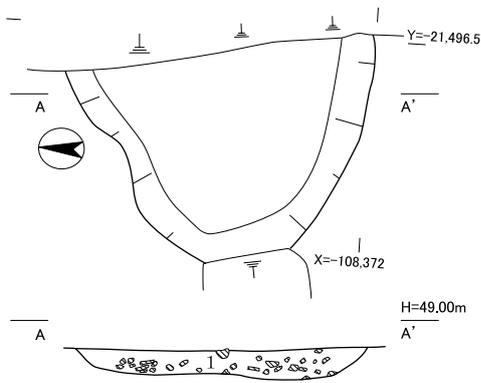
1 10R4/4 赤褐色泥砂 縮まり弱い、焼土粒多く含む

土坑242



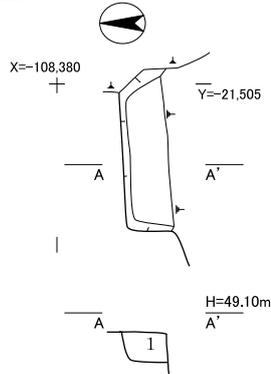
1 10YR3/4 暗褐色泥砂 瓦を多く含む

土坑231



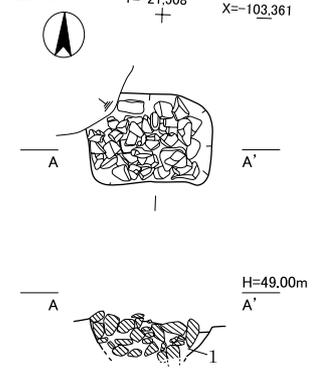
1 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ1~8cm礫多量混  
土師片・瓦少量混

土坑389



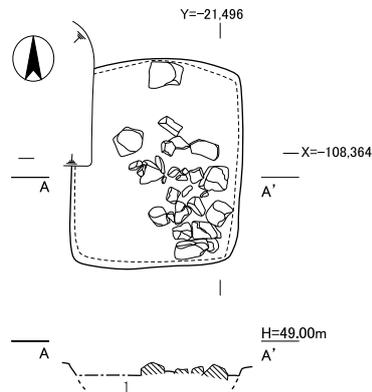
1 7.5YR4/4 褐色中砂 縮まり弱い

土坑196



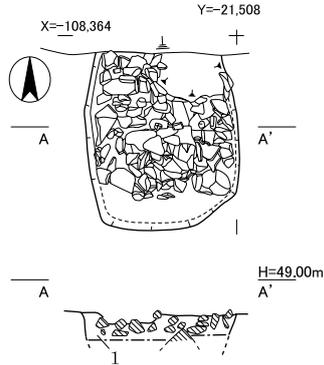
1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥

土坑222



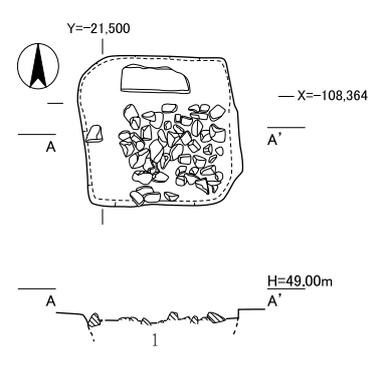
1 10YR3/4 暗褐色泥砂 拳大から人頭大の  
礫を多く含む

土坑243



1 10YR3/4 暗褐色泥砂  
φ5~15cmの礫を非常に多く含む

土坑259



1 10YR3/4 暗褐色泥砂 拳大から人頭  
大の礫を多く含む



図13 土坑196・222・231・242・243・259・389・410実測図(1:50)

いるものが拳大から長辺24cmである。溝の掘形は幅1.02m、深さ0.34mを測る。埋土は黒褐色シルトが堆積していた。土師器・陶磁器・瓦が出土した。出土した遺物は京都XIV期である。

**土坑387** 調査区南半で検出した土坑である。東西2.05m、南北2.00m以上を測る楕円形の掘形で、調査区南東側に延長する。深さは0.20mまで確認した。埋土は黒褐色泥砂が堆積していた。土師器・陶磁器・瓦が出土した。出土した遺物の時期は京都XIV期である。

#### (5) 第3面 (図版3・13)

標高48.9mで検出した遺構面で、江戸時代中頃の遺構を確認した。検出した遺構は土坑、柱穴である。

**土坑231**(図13) 調査区北半で検出した土坑である。南北1.85m、東西1.50m以上、深さは0.15mを測る。楕円形の掘形で、東側は壊されている。埋土は黒褐色泥砂が堆積していた。土師器・陶磁器・瓦が出土した。出土した遺物の時期は京都XIII期新相である。

**土坑242**(図13) 調査区北半で検出した土坑である。南北2.35m、東西2.15m以上を測る方形の掘形で、調査区の西側に延長する。深さは0.25mまで確認した。埋土は暗褐色泥砂が堆積し、拳大の川原石や花崗岩の割石、瓦を多く含む。土師器・陶磁器・瓦が出土した。出土した遺物の時期は京都XIII期新相である。

**土坑410**(図13、図版14) 調査区南半で検出した土坑である。東西2.15m、南北1.60m以上を測る円形の掘方で、検出面から0.30m下がった位置から人頭大の花崗岩の割石や川原石を詰めている。深さは0.40mまで確認した。埋土は赤褐色シルトが堆積していた。土師器・陶磁器・瓦が出土した。出土した遺物の時期は京都XIII期である。

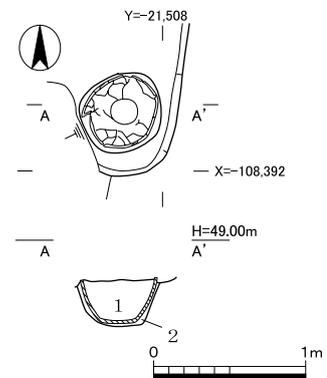
**土坑389**(図13) 調査区南半で検出した土坑である。東西1.10m、南北0.30m以上、深さは0.15mを測る方形の掘形で、南側は壊されている。埋土は黒褐色泥砂が堆積していた。土師器が出土した。出土した遺物の時期は京都XIII期新相である。

#### (6) 第4面 (図版4・13・14)

標高48.70～48.76mで検出した遺構面で、江戸時代中頃の遺構を確認した。

褐色泥砂上面で検出した遺構面である。第1面から第3面の堆積層と比較すると含まれる砂粒が均質で砂礫が少ない。検出した遺構は、建物、石組溝、柵、土坑である。なお、第4面が掘削制限深度とほぼ同一であるため、遺構の掘削は検出面から一定の深さまでで止めた。

**埋甕450**(図14、図版15) 調査区南半で検出した埋甕である。南北0.51m、東西0.52mを測る円形の掘形に甕を埋め込んでいる。深さは検出面から0.35mを測る。埋甕内部の埋土は暗褐色泥



1 7.5YR3/4 暗褐色泥砂シルト・炭多量混  
2 7.5YR4/4 褐色泥砂

図14 埋甕450実測図 (1:50)

砂で壁土、焼土が混入していた。土師器などが出土した。出土した遺物の時期は京都Ⅲ期古相である。

**土坑196** (図13) 調査区北半で検出した土坑である。東西0.75m、南北0.55mを測る方形の掘形で、拳大の花崗岩の割石や川原石を詰めている。深さは0.25mまで確認した。埋土は石の隙間にぶい黄褐色泥砂が堆積していた。地下に雨水を浸透させる集水榭と考えられる。土師器・陶磁器が出土した。出土した遺物は細片で図示できないが、時期は京都Ⅲ期古相である。

**土坑222** (図13) 調査区北半で検出した土坑である。東西1.12m、南北1.35mを測る長方形の掘形である。深さは0.10mまで確認した。埋土は暗褐色泥砂が堆積し、拳大から人頭大の花崗岩の割石や川原石を多く含む。土師器・陶磁器が出土した。出土した遺物の時期は京都Ⅲ期古相である。

**土坑243** (図13) 調査区北半で検出した土坑である。東西1.05m、南北1.15m以上を測る方形の掘形で、北側は壊されている。拳大の花崗岩の割石を多量に詰めている。深さは0.25mまで確認した。埋土は石の隙間にぶい黄褐色泥砂が堆積していた。地下に雨水を浸透させる集水榭と考えられる。土師器・陶磁器が出土した。出土した遺物は細片で図示できないが、時期は京都Ⅲ期古相である。

**土坑259** (図13) 調査区北半で検出した土坑である。東西1.02m、南北0.96mを測る方形の掘形である。深さは0.10mまで確認した。埋土は暗褐色泥砂が堆積し、拳大から人頭大の花崗岩の割石や川原石を多く含む、長辺が40cmの割石も含まれる。土師器・陶磁器が出土した。出土した遺物の時期は京都Ⅲ期古相である。

**土坑296** (図15) 調査区北半で検出した土坑である。南北1.92m、東西1.50mを測る楕円形の掘形で、溝260を壊す。深さは0.45mまで確認した。埋土はにぶい黄褐色泥砂が堆積していた。土師器・陶磁器が出土した。出土した遺物の時期は京都Ⅲ期古相である。

**溝260** (図15、図版14) 調査区北半で検出した東西方向の石組溝である。検出長13.2m、深さは検出高から0.42～0.54mを測る。石組溝の内法は幅0.45～0.48m、掘形は幅0.85～0.94mを測る。底石はなく、東端の底では堅く締まった部分を確認した。底は西に向かって1%下り勾配である。石は切石を使用して2～3段積み上げているが、均一な石材の大きさではなく、方形や長方形、台形など形状も様々である。積み上げた石の奥行きは0.10～0.20mで、面側の面積が大きい奥行きのない扁平な切石を側面に貼るように積み上げた箇所も認められる。埋土の堆積状況から、石組を残したまま埋め立てられた後に側石の石材の一部が抜き取られたと考えられる。埋土はにぶい黄褐色泥砂が堆積していた。土師器・陶磁器・瓦・貝殻が出土した。貝殻の貝種は瀬田シジミ、アカニシ貝で一般的な食用貝である。出土した遺物の時期は京都Ⅱ期新相からⅢ期古相である。

**堀1** (図15、図版14) 調査区北半で検出した溝260の北肩に並行する東西方向の堀である。土坑289・291～293・295・301で構成される。土坑間の間隔は心々で2.5～3.1mである。土坑の大きさは0.60～1.08mの楕円形で、溝260の掘形に切られる。それぞれの土坑と溝260が重複する箇所では溝260を構成する石組の上段が確認できなかった。このことから溝260に近接して並行する堀

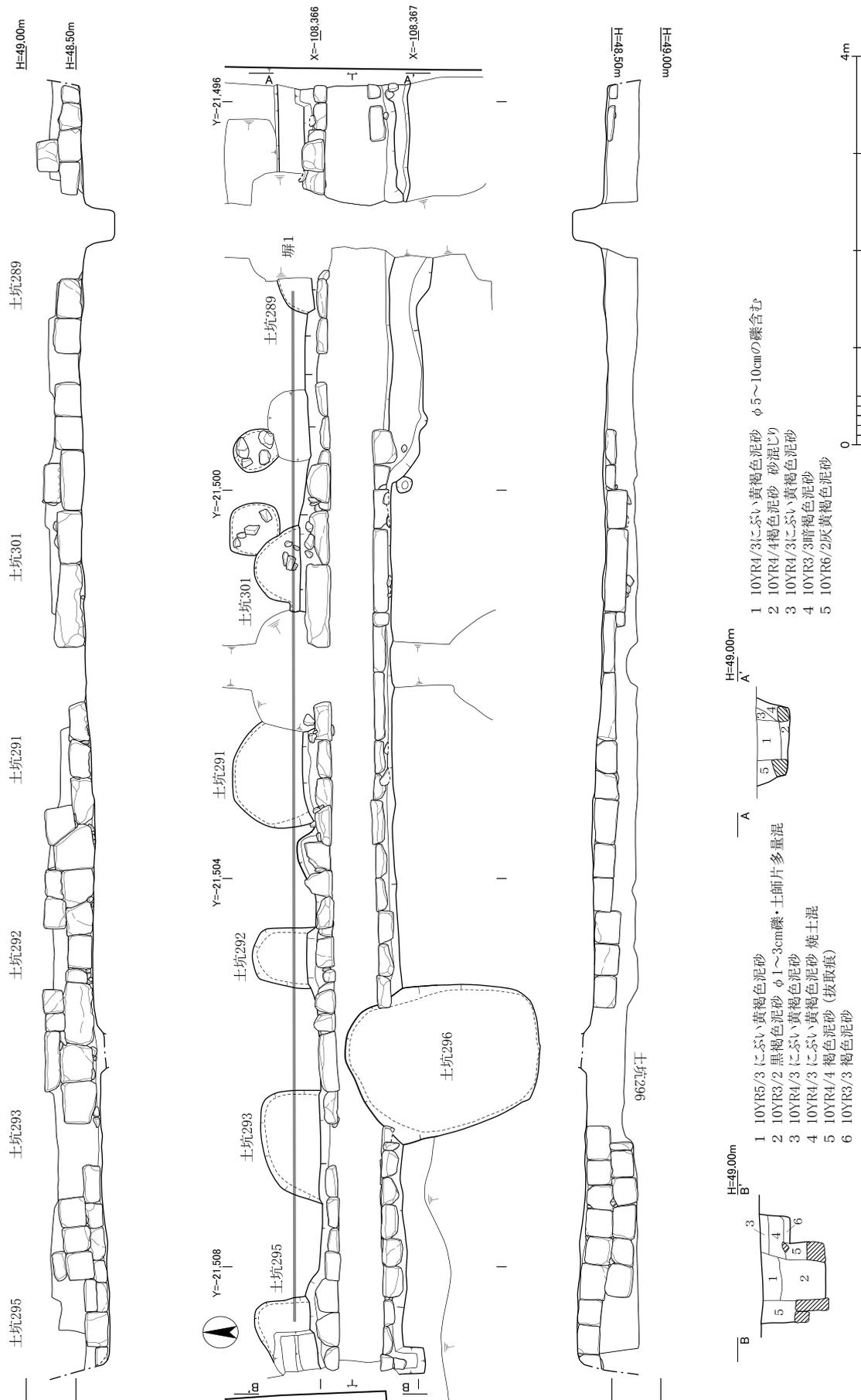


図15 溝260・堀1実測図 (1:60)

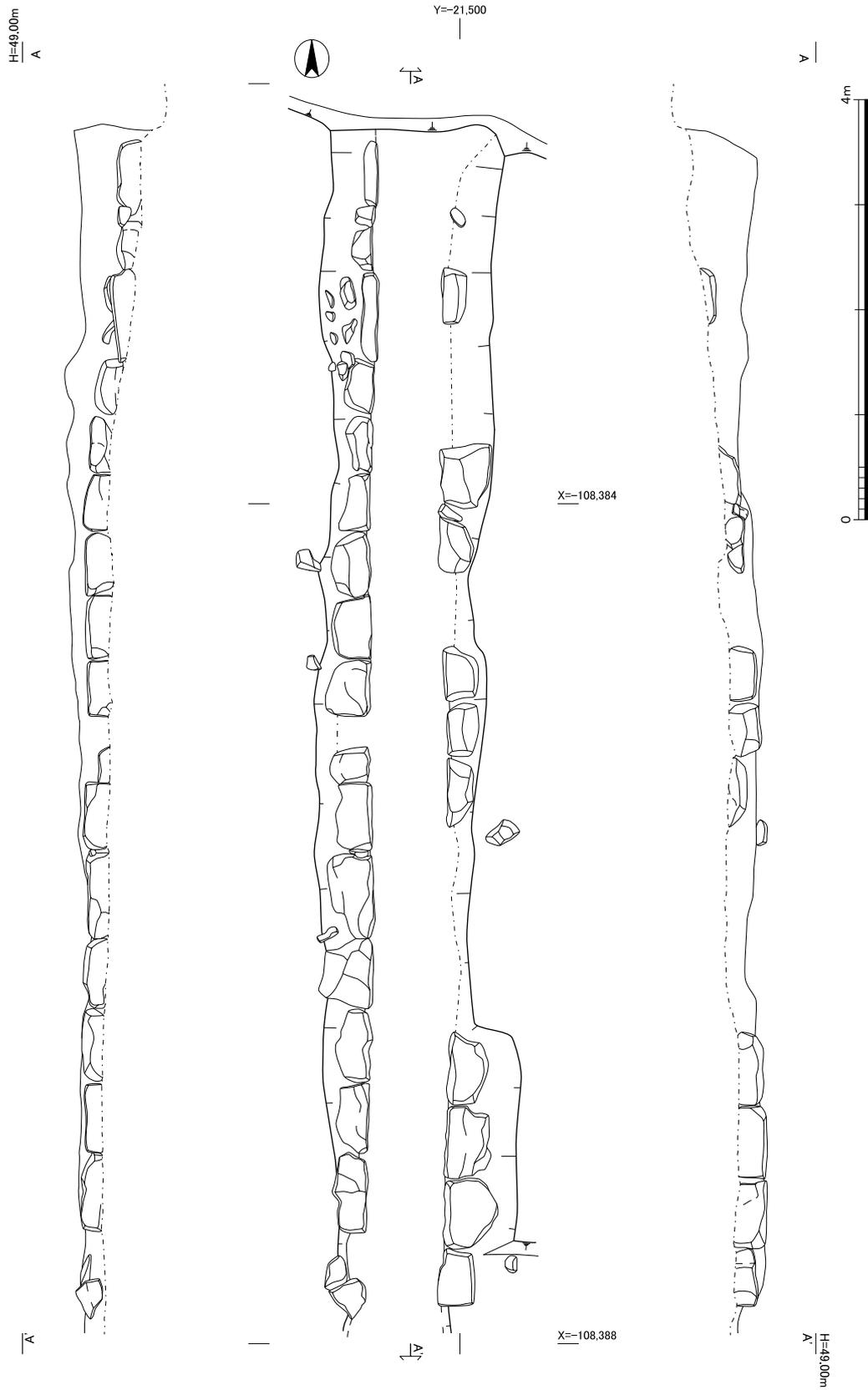


图16 沟441实测图 (1 : 60)

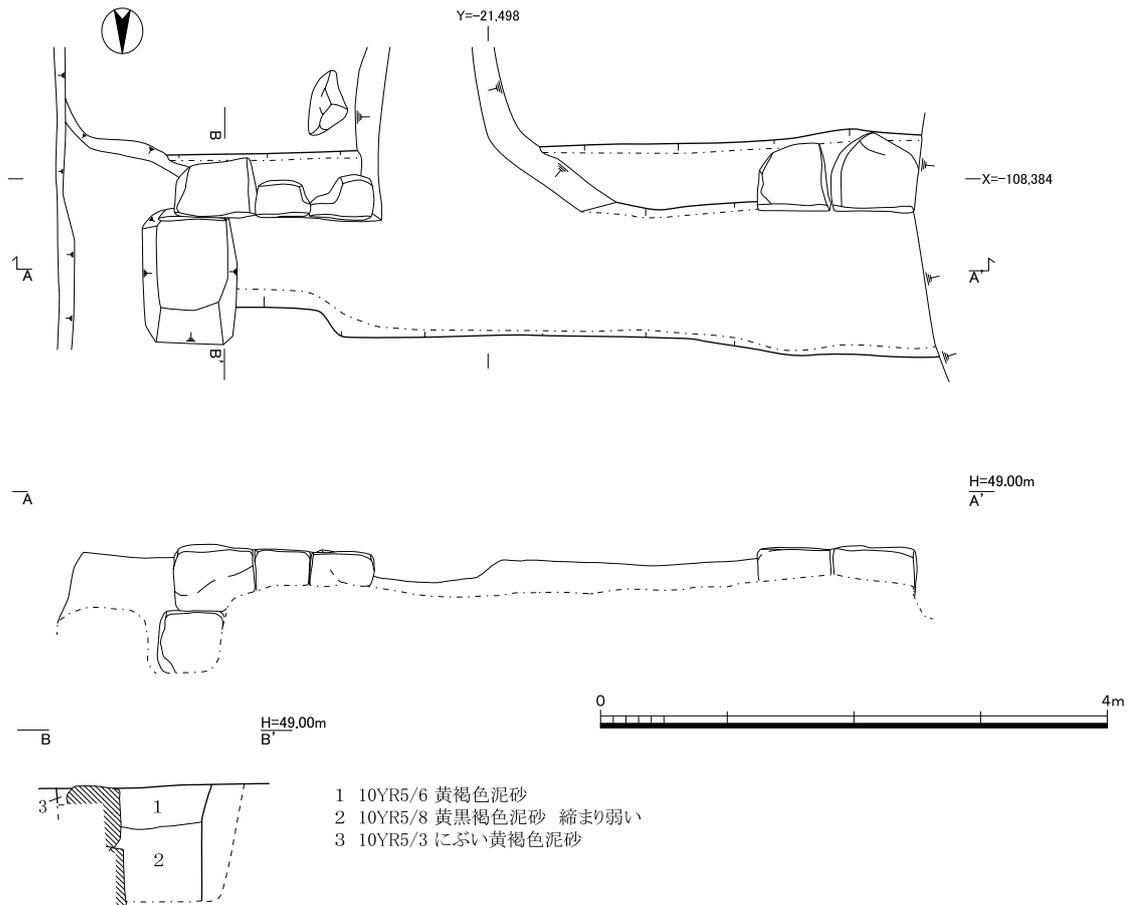


図17 溝452実測図（1：60）

の基礎石を抜きとった痕跡と考えられる。土師器・陶磁器・瓦が出土した。出土した遺物は細片で図示できないが、遺物の時期は京都XIII期である。

**溝441**（図16、図版15） 調査区南半で検出した南北方向の石組溝である。溝452を壊している。検出長11.5mを測る。溝の内法は幅0.60～0.68m、掘形は幅1.2～1.8mを測る。底は未掘のため確認していない。石は切石を使用して1段は積み上げている。石材は花崗岩の切石で、面側の大きさは長辺54～84cmを測り、均一の大きさではない。積み上げた石の奥行きも0.30～0.50mと幅があるが、面側を大きくとるように石を配列している。一部の石材が抜き取られている。埋土は黒褐色泥砂が堆積していた。土師器・陶磁器が出土した。出土した遺物は細片で図示できないが、遺物の時期は京都XIII期と考えられる。

**溝452**（図17） 調査区南半で検出した東西方向の石組溝である。検出長5.8mを測る。底は確認していないが一部断割った箇所から深さは0.96m以上を測る。石材は花崗岩の切石で、石材の大きさは面側で長辺36～60cmと均一ではなく、形も正方形に近いものや長方形のものがある。溝の掘形は1.2～1.5mを測る。溝441と重複し、石組の位置関係から溝441が新しいと考えられる。石組はほとんどが抜き取られ、南側の5石を確認した。底部の構造は未掘のため確認していない。石は切石を使用して少なくとも2段は積み上げているが、均一な石材の大きさではない。石材の多くが抜き取られている。埋土は黒褐色泥砂が堆積していた。遺物の出土はなかった。

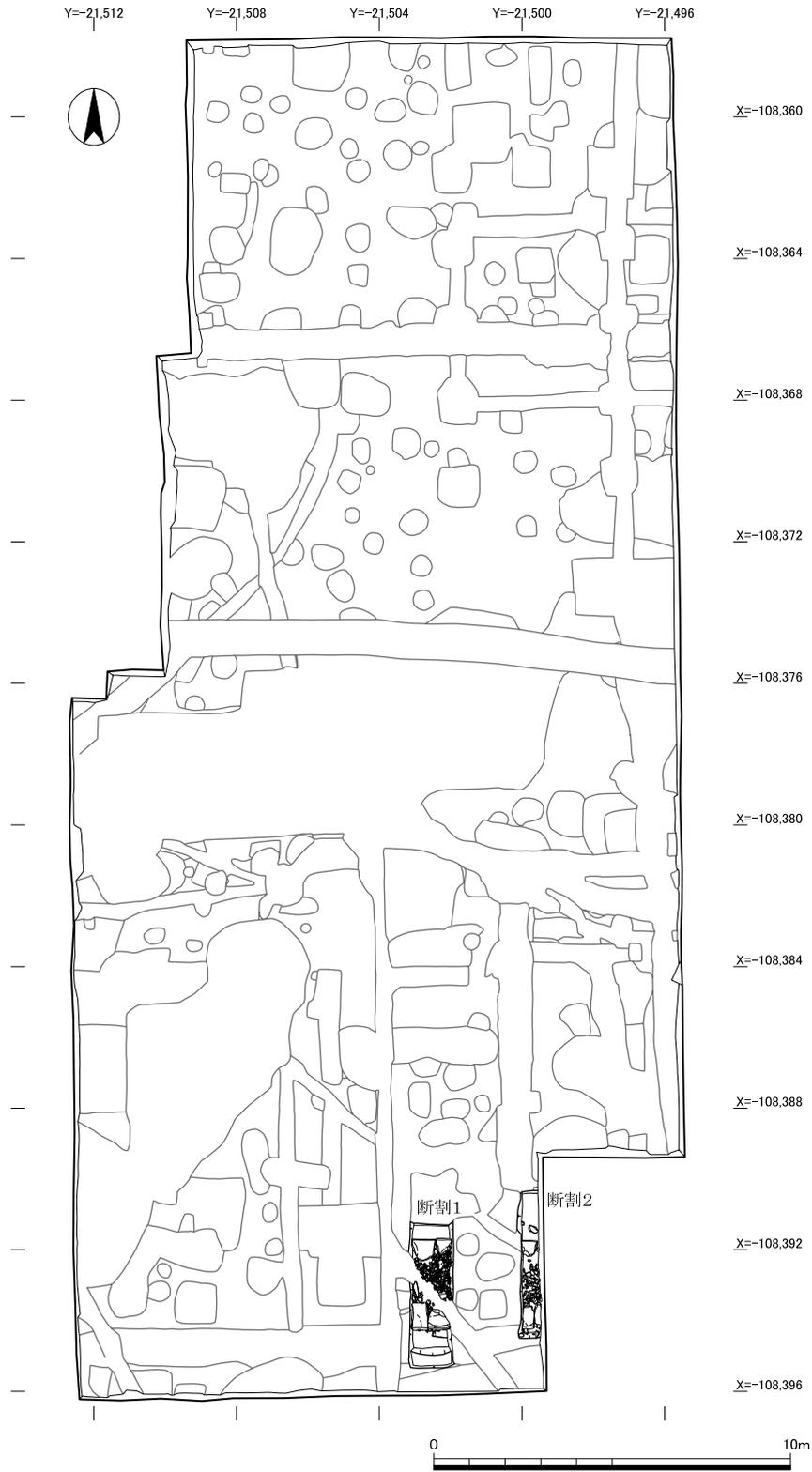


図18 断割調査位置図 (1 : 200)

## (7) 断割調査

調査区周辺で行われた立会調査によって判明した塀基礎の推定位置に断割り調査を2箇所（断割1・2）設定して、部分的に塀基礎の位置を確認した（図18）。

**塀基礎453**（図19、図版15） 東西方向の築地塀と考えられる塀の基礎である。幅0.60m、高さ0.40m程度の花崗岩の切石を南北両端に面を揃えて一列に並べ、その間に拳大の栗石を裏込めとして詰めている。基礎石の下には扁平な割石が咬ませてある。塀基礎の幅は2.60mを測る。

基礎石の表面を観察すると上部0.15mほどは平坦に加工しているが、下部は粗い加工のままである。また上部のみ被熱痕がみられる。土層断面からも加工の違いが見られる位置を境に土質が異なる。このことから塀基礎を設置後、基礎石が上部0.15m程度まで見えるところまで埋め戻され、当地の地表面が形成されていると考えられる。塀の上部構造はすべて壊されていた。

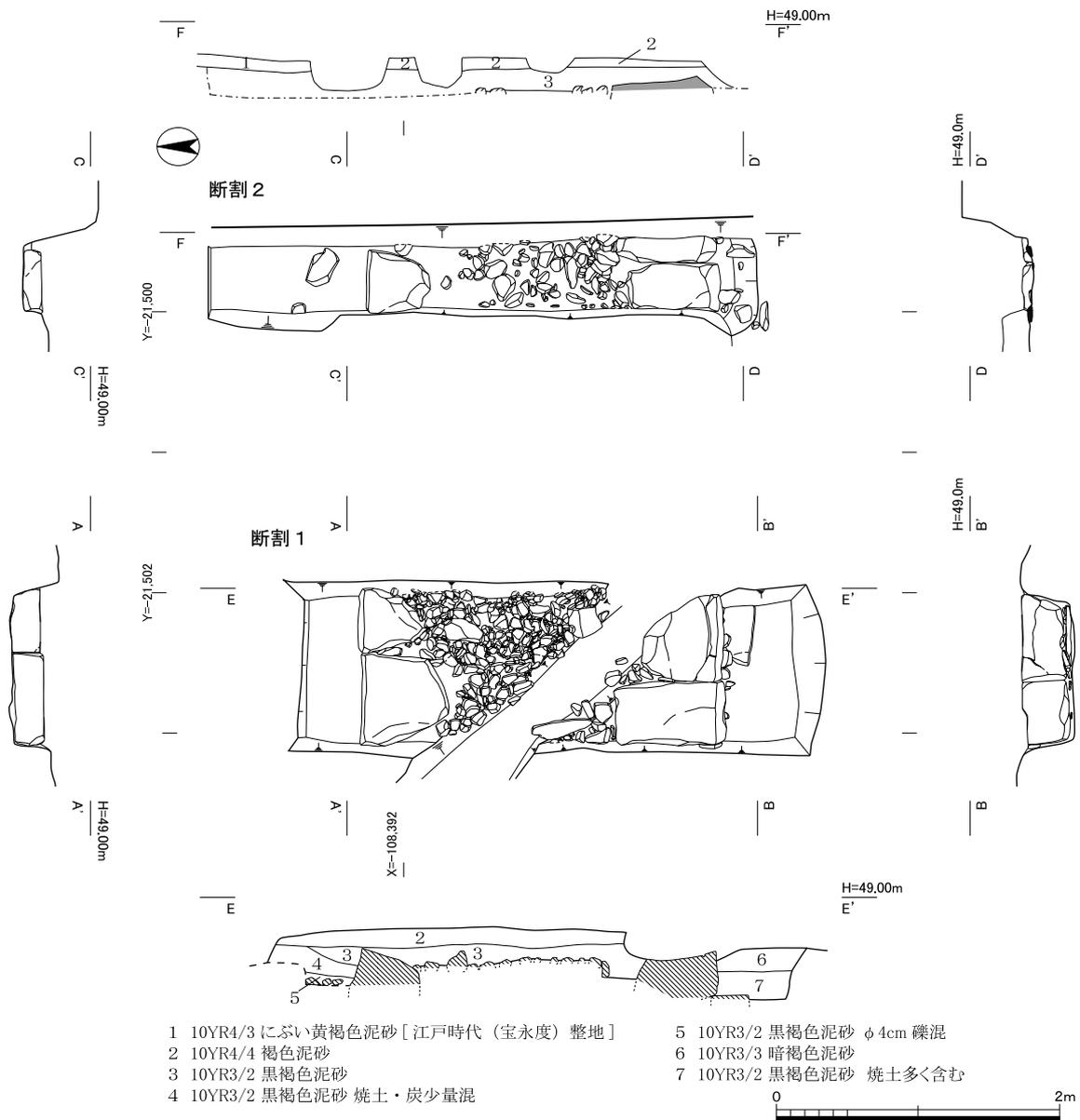


図19 塀基礎453実測図（1：50）

## 4. 遺 物

### (1) 遺物の概要

今回出土した遺物は土師器・磁器・施釉陶器・焼締陶器・瓦・金属製品・貝である。土器・陶磁器類は39箱、瓦類は15箱、金属類は2箱出土した。瓦類の出土は、調査地が大宮御所のなかでも西側の塀に近く、明治時代の塀の取り壊しに伴う廃棄があったためであろう。土器・陶磁器類は土坑222・242や溝260からまとめて出土したが、その他の遺構からの出土量は少ない。金属製品は鉄製の釘や青銅製金具の破片が少量出土した。

遺物の時期は江戸時代中頃から幕末である。また、須恵器や灰釉陶器などの平安時代の遺物や中世の瓦器が混入品としてわずかに出土した。

### (2) 土器類

**地下道170出土土器** (図版7) 1は施釉陶器の急須である。注口にらせん状の沈線をめぐらせる。時期は19世紀代と考えられる。

**土坑143出土土器** (図版7・18) 2～12は土師器の皿である。見込みに圈線がある。口径は10.2～10.3cm、器高は2.0cmである。4～12は墨書が確認できる。釈読すると、4は見込みに「…水戸…引掛太」、外面には文字ではない可能性も残すが、全体で一文字の可能性もある。8は口縁部内面に「…雅之初…□故実…」とある。□には部首に「比」を使う漢字が書かれている。外面には「…宅」と書かれている。その他は単体の文字や不明の字で釈読が困難である<sup>1)</sup>。時期は京都XIV期のなかでも古相と考えられる。

**土坑389出土土器** (図版7) 13・14は土師器皿である。見込みに圈線がある。口径は11.7～11.8cm、器高は1.9～2.1cmである。時期は京都XIII期新相と考えられる。

**土坑231出土土器** (図版7) 15は土師器の皿である。見込みに圈線がある。口径は10.4cm、器高は1.8cmである。16は土師器の焙烙である。17は磁器の椀である。外面に梅文を描く。肥前産である。時期は京都XIII期で新相と考えられる。

表3 遺物概要表

| 時 代           | 内 容                               | コンテナ箱数 | Aランク点数   | Bランク箱数 | Cランク箱数 |
|---------------|-----------------------------------|--------|--|--------|--------|
| 平安時代<br>～室町時代 | 須恵器、灰釉陶器、瓦器                       |        |  |        |        |
| 江戸時代          | 土師器、施釉陶器、磁器、<br>焼締陶器、瓦、金属製品、<br>貝 |        | 土師器50点、施釉陶器6点、磁器12点、<br>焼締陶器2点、瓦24点、<br>瓦加工品1点 |        |        |
| 合 計           |                                   | 61箱    | 95点 (6箱)                                       | 3箱     | 52箱    |

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より5箱多くなっている。

土坑242出土土器（図版7） 18～20は土師器皿である。見込みに圈線がある21は陶器の蓋である。鉄絵を描く。京・信楽系である。22～24は磁器の椀である。22は饅頭心椀で見込み部分が盛り上がる。焼成不良で貫入が多い。肥前産と考えられる。江戸時代前期の混入か。23・24は絵柄が同一で大きさもそろった組物である。肥前産である。時期は京都XIII期新相と考えられる。

溝260出土土器（図版7・16） 25～36は土師器の皿である。25～29は小皿である。口径は4.4～5.3cm、器高は1.2～1.4cmである。30は圈線のない小ぶりの皿である。口径は8.6cm、器高は1.7cmである。31～36は見込みに圈線がある。口径は10.9～11.9cm、器高は1.7～1.9cmである。37は施釉陶器の椀である。内外面を刷毛塗りしている。肥前産である。38～41は磁器の椀である。40・41は内外面無地でわずかに青みがかかった透明釉を施す。器壁が1mm程度と薄い。32は底部中央に直径2mmの焼成後穿孔を行っている。肥前産である。時期は京都XIII期古相と考えられる。ただし34・39は京都XII期新相と考えられる。

土坑222出土土器（図版8・16） 42～57は土師器皿である。見込みに圈線がある。口径は10.8～12.1cm、器高は1.9～2.3cmである。58・59は京・信楽系陶器である。58は筒椀である。59は蓋である。鉄絵で草花文をめぐらせる。60は施釉陶器の急須である。底部は露胎で全体に褐釉を施し自然釉がかかる。底部に突起を3箇所貼り付ける。京・信楽系である。61～63は磁器の椀である。61・62は外面に草花文を描く。63は外面に菊文の印判を配し、高台内面に渦福を描く。61～63はくらわんか手である。時期は京都XIII期古相と考えられる。

土坑296（図版8） 64は土師器の焙烙である。65は焼締陶器の播鉢である。口縁外面に3条の沈線をめぐらせる。時期は京都XII期新相と考えられる。

埋甕450出土土器（図版8） 66は土師器皿である。見込みに圈線がある。67は焼締陶器の甕である。底部から胴部にかけて残存し、埋甕として利用されていた。内外面に褐釉を施している。信楽産である。時期は京都XIII期古相と考えられる。

その他の遺構出土土器（図版8・18） 68は第4面精査中に出土した磁器の椀である。薄手で内外面に花菱文と菊花文を描く。いわゆる禁裏注文品である。<sup>2)</sup>69・70は土師器皿で墨書が確認できる。69は「西申」、70は習書きもしくは筆慣らしで「申」や「御」や「(ごんべん)」を重ねて書いている。69は第4面精査中、70は攪乱から出土した。

### (3) 瓦類（図版9・17）

出土した瓦は軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・菊丸瓦・輪違瓦・軒棧瓦・棧瓦がある。総じて練込瓦の菊丸瓦が多く、輪違瓦が少量出土した。平瓦・丸瓦が少なく棟瓦が多いことから塀に使用されていた瓦であると考えられる。

瓦1～18は菊丸瓦である。瓦当は瓦1～11が十六葉菊文、瓦12～18が線刻の八葉菊文である。瓦9～11は瓦3～6よりも一回り大きな瓦当である。瓦1～11が江戸時代後半から幕末、瓦12～18が江戸時代中頃である。瓦1・2は溝315、瓦3～6・9～11は地下道170埋土、瓦7・8は土坑242、瓦12～14は溝260、瓦15～17は土坑231、瓦18は土坑222から出土した。

瓦19は軒丸瓦である。瓦当は三巴文で珠文を配する。中央に直径3mmの焼成前穿孔がある。土坑231から出土した。時期は江戸時代後半である。

瓦20・21は軒棧瓦である。瓦20の瓦当は十六葉菊文である。地下道190から出土した。江戸時代後半から幕末である。瓦21の瓦当は三つ巴文である。土坑242から出土した。時期は江戸時代後半である。

瓦22・23は唐草文軒平瓦である。瓦22は近世初頭の混入品と考えられる。土坑258から出土した。時期は近世初頭である。瓦23は溝260から出土した。時期は江戸時代中頃である。

瓦24は棟込瓦の輪違瓦である。焼成時の重ね焼きの痕跡が残る。地下道170から出土した。時期は江戸時代後半から幕末である。

#### (4) その他の遺物 (図版8)

71は溝17(土蔵基礎)から出土した、瓦の再加工品である。3.5cm四方の隅丸方形に瓦を削り出したもので厚さは1.6cmである。「六」の字を削り出している。表面にL字の刻みがあり、本来求める大きさを表していると考えられ、未成品かもしれない。用途・時期は不明である。

#### 註

- 1) 墨書土器の釈読は当研究所の竹本 晃が行った。表4に釈読一覧を掲載している。表では「/」を行を改めている記号として使用している。
- 2) 皇室からの下賜品として使用される菊文があしらわれた薄手の器。肥前磁器や京焼がある。

## 5. まとめ

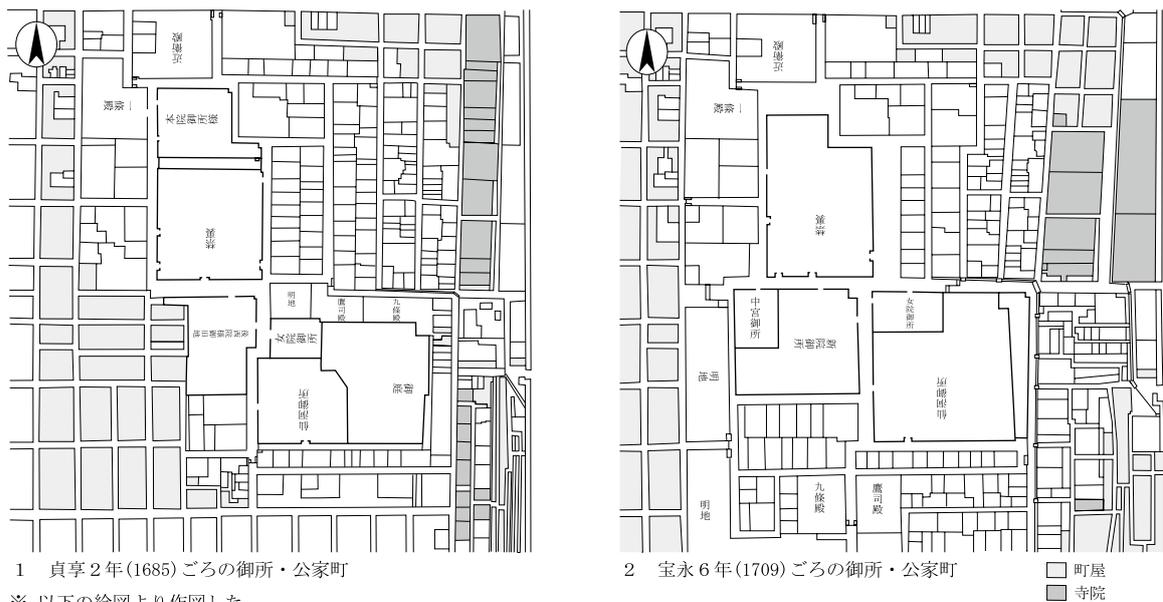
調査地は京都大宮御所の敷地の北西部にあたり、慶応3年(1867)に英照皇太后のために造営された大宮御所の跡地である。御所が大きく取り壊された後、土蔵や御車舎、奉仕団休所棟が建てられた場所である。今回の調査は掘削深度制限があったため、最深部で検出した遺構は18世紀前半(江戸時代中期)で、絵図などの造営の記録からみると、宝永の大火(1708年)後に造営された宝永度女院御所にあたる。下層に平安時代から江戸時代前半の遺構があると想定されるが、今回の調査では破壊を免れることから調査対象外であったため、江戸時代前半以前は割愛する。以下、検出した遺構をもとに絵図を参考に比較検証していく(図版6)。

### 江戸時代(宝永大火以前) [断割調査]

大宮御所(女院御所)は、寛永4年(1627)に後水尾天皇が上皇となり、院庁として仙洞御所・女院御所が造営されたことを契機に、9度の造営を繰り返した(図21)。

『中むかし公家町の絵図』などの慶長期の絵図や宝永5年(1708)に起きた宝永大火以前の絵図をみると、仙洞御所・女院御所の敷地が大きく変更されたことがわかる(図20)。宝永の大火を契機に公家町の防災意識が高まり、火避け地を確保するために道路の拡幅などが行われ、その際に女院御所の北側に塀を隔ててあった「九条殿」「鷹司殿」「明地」の敷地を取り込み大きな区画としている。

今回の断割調査で確認した塀基礎453は、この時取り壊されて埋められた塀であると考えられる。塀基礎は南北幅2.6mを測り、発掘調査と同時期に行われた京都市保護課による立会調査でも確認され、調査区の東側に一直線に延びていることが明らかになっている。大宮御所北で行われた調査3では「鷹司邸」の北東端が検出されており、今回の調査結果と合わせて絵図をもとに塀の位



※ 以下の絵図より作図した。

1：224「御所近傍之図・昔之図也」、2：225「御築地廻り公家衆屋鋪割絵図」  
谷直樹編『大工頭中井家建築指図集 中井家所蔵本』思文閣出版 2003年

図20 宝永大火前後の御所・公家町の地割変化(縮尺不同)

御所東南地の敷地範囲

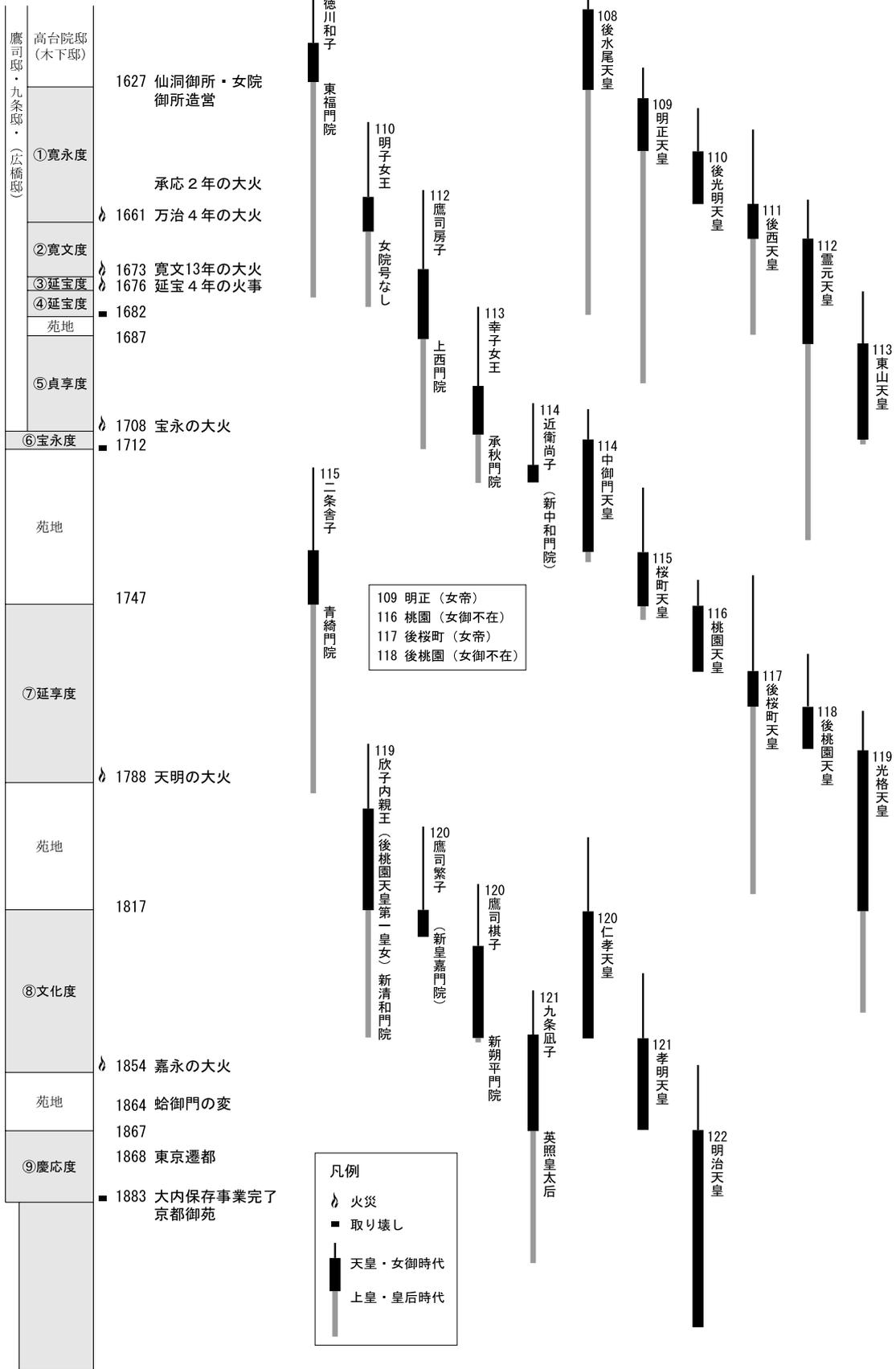


図21 女御(皇后)・天皇(上皇)と女院御所(大宮御所)年表

置をもとに復元を試みた(図22)。これにより遺構と絵図に描かれている建物の位置関係をおおよそ推定することができた。塀基礎に使用している石材は花崗岩の切石で、加工の痕跡からみて寛永期の仙洞御所・女院御所が造営された時の塀基礎であろう。塀基礎には被熱痕が認められるが、宝永の大火まで女院御所の焼失は3度もあるため、どの時期の被災痕かは不明である。

#### 江戸時代 [⑥宝永度造営] (第4面)

宝永度造営に伴う遺構は、溝260・441・452や埋甕450がある。溝260は東西方向の溝で一定間隔の抜取痕があることから、塀が隣接した構造になっていたと考えられる。絵図をみると「取次部屋」と書かれた施設の北側に塀が描かれている。絵図と実測図を合成するとおおよそ位置が合うため、溝260はこの塀の内側にあった石組溝であろう。調査地南半をみると埋甕450の位置におおよそ同定できるのが絵図の「×」である。これは絵図の凡例から「手水」とあるためこの埋甕は縁の外にある水甕であると考えられる。また溝441・452は竈を伴う土間を貫く位置に相当する。南北

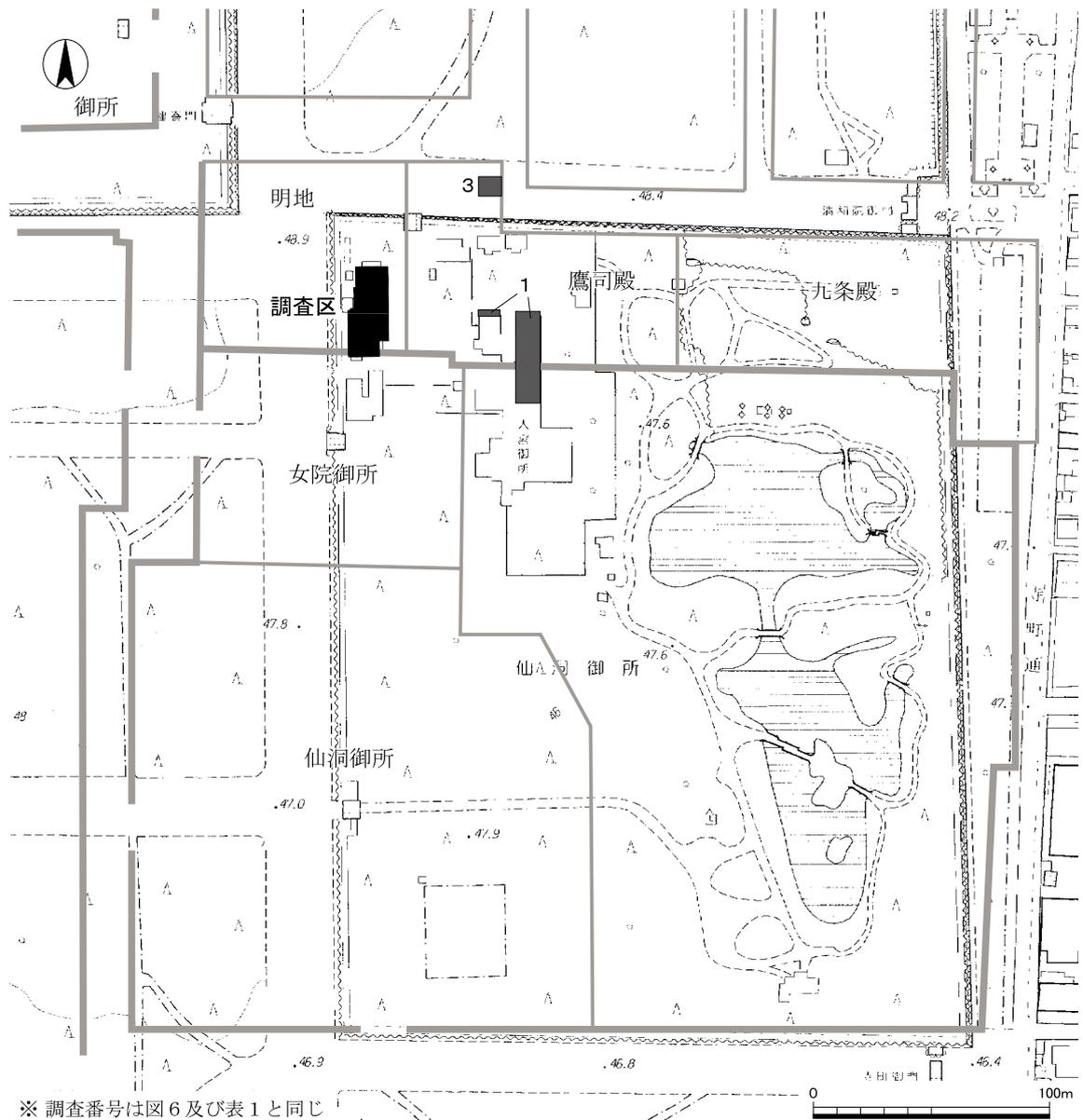


図22 築地塀推定位置図(宝永大火前、1:3,000)

方向の溝441が溝452を壊すかもしくは付け替えている。さらに土坑196・222・243・259といった集水桝と考えられる遺構が建物の空白地（庭）に設けられている。これは⑧文化度造営や⑨慶応度造営でも同様に空白地に設けられていることが窺える。

溝260や埋甕450、土坑222から出土した遺物は京都XII期新相からXIII期古相（18世紀初頭から18世紀中ごろ）で、宝永期（18世紀初頭）よりも新しいものが含まれている。これは次の延享度造営（1747年）に伴った整地時に埋められたもので、取り壊し時には埋没していなかったと考えられる。

### 江戸時代 [⑦延享度造営] (第3面)

天明の大火で焼失したとされる御所に相当する。柱穴位置が特定できず、建物配置は不明である。土坑410は焼土で埋没しており、下層には人頭大の礫を多く含んでいた。底まで掘り下げていないため不明であるが、井戸である可能性が考えられる。絵図と比較すると庭に井戸が描かれている。焼土は天明の大火時の火災処理によるものと考えられるが、遺物が出土しておらず時期を特定することができない。その他明確な遺構を確認できなかった。また土坑242や土坑231は廃棄土坑と考えられ、天明の大火後に女院御所が再建されずに苑地となった段階のものと考えられる。

### 江戸時代 [⑧文化度造営・⑨慶応度造営] (第2面)

文化13年（1817）に新清和門院のために造営された文化度造営の女院御所と、慶応3年（1867）に英照皇太后のために造営された慶応度造営の大宮御所に相当する遺構を確認した。両者は絵図をみる限りほとんど同じ建物配置となっている。



図23 京都御所の下向

調査地を絵図の位置に復元すると御殿の客間にあたると思われる。また絵図に記載される地下道（絵図の凡例には<sup>しもじもみち</sup>下々道とある）を2基検出し、両方ともに文化度造営（地下道170-2、地下道190-2）と慶応度造営（地下道170-1、地下道190-1）の2時期があった。文化度造営と考えられる地下道170-2、地下道190-2の表面には被熱して赤化した箇所が認められる。嘉永7年（1854）に発生して御所や公家町を焼失させた嘉永の大火に伴う痕跡であると考えられる。地下道は渡り廊下によって遮られる中庭同士をつなぎ、昇殿せずに建物を通過する役目を果たしている。地下道170はまっすぐに降りて登る地下構造に対して地下道190は床下で直角に折れ曲がりクランク状になっていたと考えられる。漆喰で壁面と床面を固めた地下階段で床面の中央に水抜き用の浸透桝を設けている。現在の京都御所にも渡り廊下に地下道が復元

(図23) されており、検出した地下道は同一の機能を果たしていたと考えられる。なお現在の地下道は「<sup>げこう</sup>下向」と呼ばれている。地下道170の床面で礎石を確認しており、礎石の心々間の距離は1.81mである。廊下幅が復元できたが、地上部での遺構面(第2面)では対応する建物の柱穴を明確にすることができなかった。

調査区南半で検出した東西方向の石組溝315は、絵図と比較すると塀に沿った排水溝であると考えられる。土坑387は井戸と考えられる。また、集水榦と考えられる栗石を詰め込んだ土坑(土坑143・144)は、絵図と比較すると中庭に位置することがわかる。漆喰製の樋(樋159)が集水榦に向かって傾斜している状況で検出できたことから、なんらかの導水施設も備わっていた可能性がある。土坑143からは京都XIV期古相の土師器皿が出土していることから、少なくとも土坑143(集水榦)は文化度造営に成立したものである。ただし慶応度造営でも再利用している可能性は高い。また宝永度造営に伴うと考えられる集水榦(土坑196・222・243・259)が0.75mから1.12mの掘形に対して、文化度・慶応度の集水榦(土坑143・144)は1.5mから1.7mの掘形で、平面規模は約1.5倍である。宝永度の集水榦は底まで掘り下げていないため、容量は計算できないが、時代が下がると集水榦が大型化している。

#### 明治時代(第1面)

明治2年(1869)に天皇が東京に移り、明治7年(1874)には英照皇后も東京に移ることとなり、大宮御所の居住者が不在となった。荒廃した御所や公家町を公園化する大内保存事業が明治10



図24 建物1(御車舎)の基礎



図25 京都御所の御車舎

年（1877）から明治16年（1883）まで行われ、大宮御所も解体縮小された。建物2は大内保存事業の時に大宮御所跡地に建てられた土蔵2棟のうちの西側の1棟である。推定される建物規模は5.2m×7.2mである。

#### 大正時代（第1面）

大正4年（1915）の大礼時に、京都御所にあった御車舎<sup>おくるまやどり</sup>を明治時代の土蔵に代えて移設している。建物1は御車舎である。4間×2間分を検出しており、コンクリート基礎の建物で柱穴の間に布基礎がある（図24）。御車舎は牛車を収納する建物で、昭和の大礼時に京都御所へ再度移築され現在も残っている（図25）。建物規模は東西13.75m、南北8.8mを測る。牛車3台分を収納できる建物となっており、牛車1台分の空間は東西4.65m、南北8.8mである。

#### 昭和時代から現代（第1面）

昭和3年（1928）の大礼時に御車舎を京都御所へ再度移転し、跡地に奉仕団休所棟や作業棟が建てられている。奉仕団休所棟は東西6m、南北18mを測る木造平屋建てで、調査区北半でコンクリート基礎の根石を多数検出した。この建物は発掘調査直前に解体されたものである。その他の作業棟や浄化槽、配管を確認した。

検出した遺構をみると以上のような変遷をたどる。最後に出土した遺物をみると、江戸時代の後半にも関わらず土師器皿が多いという特徴<sup>2)</sup>がみられるが、いわゆる高級品の類は出土していない。禁裏注文品と考えられる肥前磁器（図版8-68）が、わずかに確認できる程度である。これは調査地が女院御所のなかでも御車寄（入口）付近であり、客間として利用されていた空間であるからかもしれない。

#### 註

- 1) 冷泉為人「公家町の災害と防災－内裏（仙洞・大宮）御所をめぐって－」『歴史災害と都市－京都・東京を中心に－』2005年
- 2) 御所や公家町では江戸時代を通して土師器皿が使用される。これは江戸時代後半になると、町屋などでは土師器皿がほとんど利用されなくなってくる状況と異なることが、これまでの発掘調査によって判明している。また、御所では土師器皿を古式風に注文するなどの事例があり、土師器皿を意識的に使用している。平尾政幸氏のご教示による。

表4 土器類観察表

| No. | 器種   | 器形 | 出土遺構       | 口径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 残存<br>(%) | 色調 胎土   | 備考                        |
|-----|------|----|------------|------------|------------|------------|-----------|---|---------------------------|
| 1   | 施釉陶器 | 急須 | 地下道170     |            | (4.7)      |            | 破片        | 釉薬:灰色 胎土:灰褐色 胎土精良 焼成堅緻                              | 京・信楽系                     |
| 2   | 土師器  | 皿  | 土坑143      | 10.2       | 2.0        |            | 20        | 10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良(φ1.5mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好   |                           |
| 3   | 土師器  | 皿  | 土坑143      | 10.3       | 2.0        |            | 40        | 7.5YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良(φ1.5mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好  |                           |
| 4   | 土師器  | 皿  | 土坑143      |            |            |            | 破片        | 7.5YR6/6橙色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好        | 墨書:内面「水戸/□引掛太」<br>外面「□/□」 |
| 5   | 土師器  | 皿  | 土坑143      |            |            |            | 破片        | 10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良(φ1.5mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好   | 墨書:内面「□」<br>外面「□/□」       |
| 6   | 土師器  | 皿  | 土坑143      |            |            |            | 破片        | 10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良(φ1.5mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好   | 墨書:内面「□□□」                |
| 7   | 土師器  | 皿  | 土坑143      |            |            |            | 破片        | 7.5YR6/6橙色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好        | 墨書:外面「□霞□」                |
| 8   | 土師器  | 皿  | 土坑143      |            |            |            | 破片        | 10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良(φ1.5mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好   | 墨書:内面「雅之初/□故実」<br>外面「□宅」  |
| 9   | 土師器  | 皿  | 土坑143      |            |            |            | 破片        | 10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良(φ1.5mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好   | 墨書:内面「□註/□□」<br>外面「□」     |
| 10  | 土師器  | 皿  | 土坑143      |            |            |            | 破片        | 10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良(φ1.5mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好   | 墨書:内面「癸□/□□」<br>外面「庄/□□」  |
| 11  | 土師器  | 皿  | 土坑143      |            |            |            | 破片        | 10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良(φ1.5mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好   | 墨書:内面「□□」                 |
| 12  | 土師器  | 皿  | 土坑143      |            |            |            | 破片        | 10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良(φ1.5mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好   | 墨書:内面「□」                  |
| 13  | 土師器  | 皿  | 土坑389      | 11.7       | (1.9)      |            | 20        | 7.5YR6/6橙色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好        |                           |
| 14  | 土師器  | 皿  | 土坑389      | 11.8       | (2.1)      |            | 90        | 5YR6/6橙色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好          |                           |
| 15  | 土師器  | 皿  | 土坑231      | 10.4       | 1.8        |            | 50        | 10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良(φ1.5mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好   | 灯明                        |
| 16  | 土師器  | 焙烙 | 土坑231      | 25.6       | (5.2)      |            | 20        | 7.5YR7/4にぶい黄橙色 胎土やや粗(φ6.5mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好 | 煤付着                       |
| 17  | 磁器   | 椀  | 土坑231      | 10.7       | (4.0)      |            | 20        | 草花文 釉薬:淡青灰色 胎土:白色 胎土精良 焼成堅緻                         | 肥前産                       |
| 18  | 土師器  | 皿  | 土坑242      | 10.9       | 2.1        |            | 20        | 10YR8/4浅黄橙色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好       |                           |
| 19  | 土師器  | 皿  | 土坑242      | 11.7       | 1.8        |            | 20        | 10YR8/4浅黄橙色 胎土精良(φ2.0mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好       |                           |
| 20  | 土師器  | 皿  | 土坑242      | 11.8       | 1.8        |            | 20        | 10YR8/3浅黄橙色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好       |                           |
| 21  | 磁器   | 椀  | 土坑242      |            | (4.1)      | 4.4        | 60        | 草花文か 釉薬:灰白色 胎土:にぶい黄橙色 胎土精良 焼成不良                     | 肥前産                       |
| 22  | 施釉陶器 | 蓋  | 土坑242      | (2.1)      |            |            | 60        | 外面:鉄絵 釉薬:淡黄色 胎土:淡黄色 胎土精良 焼成良好                       | 京・信楽系                     |
| 23  | 磁器   | 椀  | 土坑242      |            | (3.6)      | 3.3        | 60        | 外面:幾何学文 釉薬:淡青灰色 胎土:灰白色 胎土精良 焼成堅緻                    | 肥前産                       |
| 24  | 磁器   | 椀  | 土坑242      |            | (3.1)      | 3.2        | 60        | 外面:幾何学文 釉薬:淡青灰色 胎土:灰白色 胎土精良 焼成堅緻                    | 肥前産                       |
| 25  | 土師器  | 皿  | 溝260       | 4.4        | 1.3        |            | 50        | 5YR7/6橙色 胎土精良(φ0.5mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好          |                           |
| 26  | 土師器  | 皿  | 溝260       | 4.7        | 1.2        |            | 100       | 5YR6/6橙色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好          |                           |
| 27  | 土師器  | 皿  | 溝260       | 4.9        | 1.4        |            | 100       | 5YR6/6橙色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好          |                           |
| 28  | 土師器  | 皿  | 溝260       | 5.1        | 1.2        |            | 50        | 5YR6/6橙色 胎土精良(φ0.5mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好          | 灯明                        |
| 29  | 土師器  | 皿  | 溝260<br>上層 | 5.3        | 1.2        |            | 80        | 7.5YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良(φ0.5mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好    |                           |

| No. | 器種   | 器形 | 出土遺構       | 口径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 残存<br>(%) | 色調 胎土   | 備考    |
|-----|------|----|------------|------------|------------|------------|-----------|---|-------|
| 30  | 土師器  | 皿  | 溝260<br>上層 | 8.6        | 1.7        |            | 40        | 7.5YR7/6橙色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好      |       |
| 31  | 土師器  | 皿  | 溝260       | 10.9       | 1.7        |            | 90        | 7.5YR7/6橙色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好      |       |
| 32  | 土師器  | 皿  | 溝260<br>上層 | 11.5       | 1.9        |            | 20        | 7.5YR8/4浅黄橙色 胎土精良(φ2.0mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好    |       |
| 33  | 土師器  | 皿  | 溝260<br>上層 | 11.8       | 1.7        |            | 40        | 7.5YR7/6橙色 胎土精良(φ0.5mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好      |       |
| 34  | 土師器  | 皿  | 溝260       | 11.8       | 2.1        |            | 20        | 7.5YR7/6橙色 胎土精良(φ0.5mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好      | 灯明    |
| 35  | 土師器  | 皿  | 溝260       | 11.8       | 2.0        |            | 60        | 7.5YR7/6橙色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好      |       |
| 36  | 土師器  | 皿  | 溝260       | 11.9       | 1.9        |            | 100       | 7.5YR7/6橙色 胎土精良(φ1.5mm以下の長石・チャート・雲母を含む) 焼成良好      |       |
| 37  | 施釉陶器 | 椀  | 溝260       |            | (4.3)      | 3.9        | 40        | 外面内面:刷毛塗り 釉薬:にぶい黄橙色<br>胎土:灰白色 胎土精良 焼成堅緻           | 肥前産   |
| 38  | 磁器   | 椀  | 溝260       | 9.2        | 5.3        | 3.4        | 40        | 外面:草花と斜格子の市松文 釉薬:明緑灰色<br>胎土:白色 胎土精良 焼成堅緻 畳付砂付着    | 肥前産   |
| 39  | 磁器   | 椀  | 溝260<br>上層 | 9.8        | 4.0        | 5.7        | 100       | 雨降文 口紅 釉薬:白色 胎土:白色 胎土精良<br>焼成堅緻 口縁端               | 肥前産   |
| 40  | 磁器   | 椀  | 溝260       | 10.6       | 6.0        | 4.3        | 40        | 無文 薄手 釉薬:薄い明青灰色 胎土:白色<br>胎土精良 焼成堅緻                | 肥前産   |
| 41  | 磁器   | 椀  | 溝260       | 10.6       | 6.0        | 4.6        | 15        | 無文 薄手 釉薬:薄い明青灰色 胎土:白色<br>胎土精良 焼成堅緻                | 肥前産   |
| 42  | 土師器  | 皿  | 土坑222      | 10.8       | 2.2        |            | 40        | 7.5YR7/6橙色 胎土精良(φ1.5mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好    |       |
| 43  | 土師器  | 皿  | 土坑222      | 10.8       | 2.0        |            | 40        | 10YR8/3浅黄橙色 胎土精良(φ1.0mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好   |       |
| 44  | 土師器  | 皿  | 土坑222      | 10.9       | 2.1        |            | 40        | 7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良(φ2.0mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好 |       |
| 45  | 土師器  | 皿  | 土坑222      | 10.9       | 2.0        |            | 40        | 7.5YR7/6橙色 胎土精良(φ0.5mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好    |       |
| 46  | 土師器  | 皿  | 土坑222      | 10.9       | 2.0        |            | 40        | 7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良(φ1.0mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好 |       |
| 47  | 土師器  | 皿  | 土坑222      | 11.0       | 2.2        |            | 40        | 7.5YR7/6橙色 胎土精良(φ0.5mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好    |       |
| 48  | 土師器  | 皿  | 土坑222      | 11.0       | 2.0        |            | 40        | 10YR7/3にぶい黄橙色 胎土精良(φ2.0mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好 |       |
| 49  | 土師器  | 皿  | 土坑222      | 11.2       | 2.2        |            | 40        | 7.5YR6/6橙色 胎土精良(φ1.0mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好    |       |
| 50  | 土師器  | 皿  | 土坑222      | 11.5       | 2.3        |            | 40        | 7.5YR7/6橙色 胎土精良(φ1.5mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好    |       |
| 51  | 土師器  | 皿  | 土坑222      | 11.6       | 2.3        |            | 60        | 10YR8/4浅黄橙色 胎土精良(φ1.0mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好   |       |
| 52  | 土師器  | 皿  | 土坑222      | 11.7       | 2.1        |            | 40        | 7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良(φ1.0mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好 |       |
| 53  | 土師器  | 皿  | 土坑222      | 11.7       | 1.9        |            | 40        | 5YR7/6橙色 胎土精良(φ4.0mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好      |       |
| 54  | 土師器  | 皿  | 土坑222      | 11.8       | 2.2        |            | 20        | 10YR8/4浅黄橙色 胎土精良(φ1.0mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好   | 底部に穿孔 |
| 55  | 土師器  | 皿  | 土坑222      | 11.9       | 2.0        |            | 40        | 7.5YR7/4にぶい橙色 胎土精良(φ1.0mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好 |       |
| 56  | 土師器  | 皿  | 土坑222      | 12.1       | 2.2        |            | 40        | 5YR6/6橙色 胎土精良(φ2.0mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好      |       |
| 57  | 土師器  | 皿  | 土坑222      | 12.1       | 2.0        |            | 40        | 10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良(φ1.0mm以下のチャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好 |       |
| 58  | 施釉陶器 | 筒椀 | 土坑222      | 7.7        | 6.4        | 3.7        | 100       | 外面:線文 釉薬:浅黄橙色 胎土:にぶい黄橙色<br>胎土精良 焼成堅緻              | 京・信楽系 |

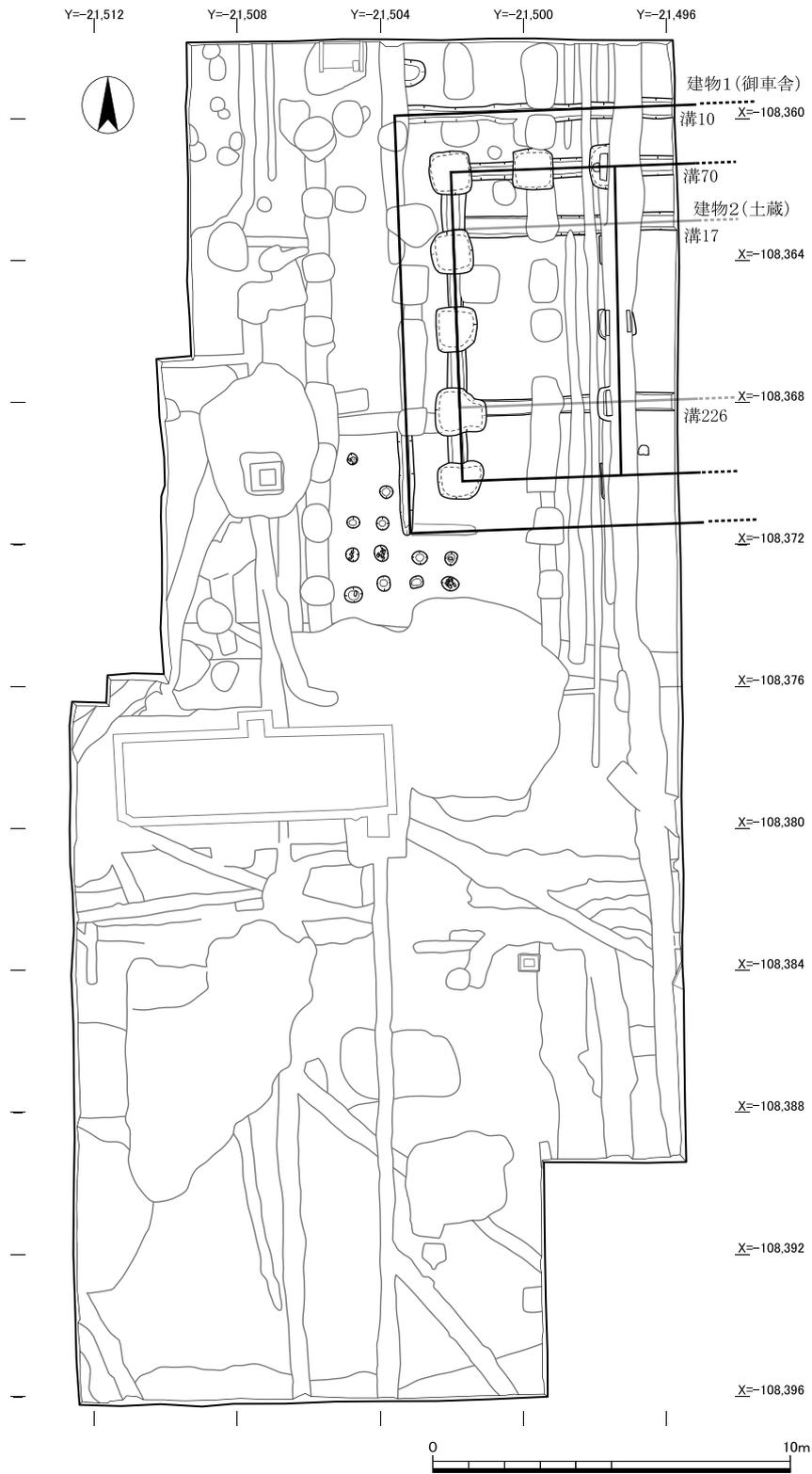
| No. | 器種   | 器形  | 出土遺構  | 口径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 残存<br>(%) | 色調 胎土  | 備考                     |
|-----|------|-----|-------|------------|------------|------------|-----------|--|------------------------|
| 59  | 施釉陶器 | 蓋   | 土坑222 | 10.1       | 2.5        |            | 100       | 外面:圏線に草花文 釉薬:灰白色 胎土:灰白色<br>胎土精良 焼成堅緻                   | 京・信楽系                  |
| 60  | 施釉陶器 | 急須  | 土坑222 | 7.2        | 10.1       | 8.4        | 100       | 釉薬:褐色 胎土:にぶい黄橙色 胎土精良<br>焼成堅緻                           | 京・信楽系                  |
| 61  | 磁器   | 椀   | 土坑222 | 11.0       | 5.7        | 4.4        | 60        | 外面:草花文 高台:不明 釉薬:薄い明緑灰色<br>胎土:白色 胎土精良 焼成堅緻 畳付に砂付着       | 肥前産                    |
| 62  | 磁器   | 椀   | 土坑222 | 10.6       | 5.7        | 4.2        | 60        | 外面:草花文 高台:大か 釉薬:薄い明緑灰色<br>胎土:白色 胎土精良 焼成堅緻 畳付に砂付着       | 肥前産                    |
| 63  | 磁器   | 椀   | 土坑222 | 11.0       | 5.9        | 4.6        | 90        | 外面:菊文 高台:渦福 釉薬:灰白色 胎土:白色<br>胎土精良 焼成堅緻                  | 肥前産                    |
| 64  | 土師器  | 焙烙  | 土坑296 | 27.2       | (5.8)      |            | 40        | 7.5YR7/4にぶい橙色 胎土やや粗(φ6.5mm以下の<br>チャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好 | 煤付着                    |
| 65  | 焼締陶器 | 播鉢  | 土坑296 |            |            |            | 破片        | 5YR4/3にぶい赤褐色 胎土粗(φ5.0mm以下の長<br>石・チャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成堅緻 | 信楽産                    |
| 66  | 土師器  | 皿   | 埋甕450 | 11.9       | 2.0        |            | 40        | 2.5YR7/3浅黄色 胎土精良(φ0.5mm以下の長石・<br>チャート・雲母を含む) 焼成良好      |                        |
| 67  | 焼締陶器 | 甕   | 埋甕450 |            | (33.8)     | 17.2       | 80        | 釉薬:褐色 胎土:灰白色 胎土精良 焼成堅緻                                 | 信楽産                    |
| 68  | 磁器   | 椀   | 第4面精査 | 11.4       | (3.0)      |            | 25        | 内外面:花菱文に菊文 釉薬:白色 胎土:白色<br>胎土精良 焼成堅緻                    | 肥前産                    |
| 69  | 土師器  | 皿   | 第4面精査 |            |            |            | 破片        | 10YR7/4にぶい黄橙色 胎土精良(φ1.5mm以下の<br>チャート・雲母・赤色粒子を含む) 焼成良好  | 墨書:内面「西申」<br>外面「□」     |
| 70  | 土師器  | 皿   | 攪乱305 |            |            |            | 破片        | 7.5YR6/6橙色 胎土精良(φ1.0mm以下の長石・<br>チャート・雲母を含む) 焼成良好       | 墨書:外面「(申や御など重ね<br>書き)」 |
| 71  | 瓦加工品 | 不明品 | 溝17   |            |            |            | 100       | 長さ3.5cm 幅3.4cm 厚さ1.6cm                                 | 「六」削り出し                |

表5 瓦類観察表

| No. | 出土遺構   | 種類  | 瓦当径<br>(cm) | 色調・胎土・焼成                             | 形態・手法の特徴  | 時期   | 備考         |
|-----|--------|-----|-------------|--------------------------------------|---|------|------------|
| 瓦1  | 溝315   | 菊丸瓦 | 8.1         | N3/0灰色 胎土精良(φ2.0mm以下の砂粒を含む) 焼成良好     | 十六葉菊文。瓦当部は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面指オサエ。キラコ付着。             | 江戸時代 |            |
| 瓦2  | 溝315   | 菊丸瓦 | 8.3         | N3/0灰色 胎土精良(φ2.0mm以下の砂粒を含む) 焼成良好     | 十六葉菊文。瓦当部は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面指オサエ。キラコ付着。             | 江戸時代 |            |
| 瓦3  | 地下道170 | 菊丸瓦 | 8.0         | N4/0灰色 胎土精良(φ5.0mm以下の砂粒を含む) 焼成良好     | 十六葉菊文。瓦当部は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面指オサエ。キラコ付着。             | 江戸時代 |            |
| 瓦4  | 地下道170 | 菊丸瓦 | 8.2         | N4/0灰色 胎土精良(φ2.5mm以下の砂粒を含む) 焼成良好     | 十六葉菊文。瓦当部は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面指オサエ。キラコ付着。             | 江戸時代 |            |
| 瓦5  | 地下道170 | 菊丸瓦 | 8.2         | N4/0灰色 胎土精良(φ3.0mm以下の砂粒を含む) 焼成良好     | 十六葉菊文。瓦当部は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面指オサエ。キラコ付着。             | 江戸時代 |            |
| 瓦6  | 地下道170 | 菊丸瓦 | 8.2         | N4/0灰色 胎土精良(φ1.0mm以下の砂粒を含む) 焼成良好     | 十六葉菊文。瓦当部は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面指オサエ。キラコ付着。             | 江戸時代 |            |
| 瓦7  | 土坑242  | 菊丸瓦 | 8.1         | N4/0灰色 胎土精良(φ5.0mm以下の砂粒を含む) 焼成良好     | 十六葉菊文。瓦当部は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面指オサエ。キラコ付着。             | 江戸時代 |            |
| 瓦8  | 土坑242  | 菊丸瓦 | 9.3         | N4/0灰色 胎土精良(φ6.0mm以下の砂粒を含む) 焼成良好     | 十六葉菊文。瓦当部は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面指オサエ。キラコ付着。             | 江戸時代 |            |
| 瓦9  | 地下道170 | 菊丸瓦 | 9.4         | N3/0暗灰色 胎土精良(φ10.0mm以下の砂粒を含む) 焼成良好   | 十六葉菊文。瓦当部は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面指オサエ。キラコ付着。             | 江戸時代 |            |
| 瓦10 | 地下道170 | 菊丸瓦 | 9.4         | N3/0暗灰色 胎土精良(φ1.5mm以下の砂粒を含む) 焼成良好    | 十六葉菊文。瓦当部は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面指オサエ。キラコ付着。             | 江戸時代 |            |
| 瓦11 | 地下道170 | 菊丸瓦 | 9.4         | N3/0暗灰色 胎土精良(φ5.0mm以下の砂粒を含む) 焼成良好    | 十六葉菊文。瓦当部は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面指オサエ。キラコ付着。             | 江戸時代 |            |
| 瓦12 | 溝260   | 菊丸瓦 | 7.0         | N4/0灰色 胎土精良(φ5.0mm以下の砂粒を含む) 焼成良好     | 線刻八葉菊文。瓦当部は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面指オサエ。キラコ付着。            | 江戸時代 |            |
| 瓦13 | 溝260   | 菊丸瓦 | 7.1         | N4/0灰色 胎土精良(φ1.0mm以下の砂粒を含む) 焼成良好     | 線刻八葉菊文。瓦当部は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面指オサエ。キラコ付着。            | 江戸時代 |            |
| 瓦14 | 溝260   | 菊丸瓦 | 8.2         | N3/0灰色 胎土精良(φ1.0mm以下の砂粒を含む) 焼成良好     | 線刻八葉菊文。瓦当部は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面指オサエ。キラコ付着。            | 江戸時代 |            |
| 瓦15 | 土坑231  | 菊丸瓦 | 7.7         | 2.5Y8/4淡黄色 胎土精良(φ4.0mm以下の砂粒を含む) 焼成良好 | 線刻八葉菊文。瓦当部は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面指オサエ。キラコ付着。            | 江戸時代 |            |
| 瓦16 | 土坑231  | 菊丸瓦 | 7.8         | 2.5Y8/3淡黄色 胎土精良(φ2.5mm以下の砂粒を含む) 焼成良好 | 線刻八葉菊文。瓦当部は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面指オサエ。キラコ付着。            | 江戸時代 |            |
| 瓦17 | 土坑231  | 菊丸瓦 | 8.3         | N4/0灰色 胎土精良(φ2.0mm以下の砂粒を含む) 焼成良好     | 線刻八葉菊文。瓦当部は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面指オサエ。キラコ付着。            | 江戸時代 |            |
| 瓦18 | 土坑222  | 菊丸瓦 | 7.8         | N4/0灰色 胎土精良(φ4.0mm以下の砂粒を含む) 焼成良好     | 線刻八葉菊文。瓦当部は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面指オサエ。                  | 江戸時代 |            |
| 瓦19 | 土坑231  | 軒丸瓦 | 15.0        | 2.5Y7/1灰白色 胎土精良(φ4.0mm以下の砂粒を含む) 焼成良好 | 右巻三巴文。瓦当部は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面指オサエ。                   | 江戸時代 | 瓦当中心に焼成前穿孔 |
| 瓦20 | 地下道190 | 軒棧瓦 | 9.9         | N4/0灰色 胎土精良(φ4.0mm以下の砂粒を含む) 焼成良好     | 十六葉菊文。瓦当部は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面指オサエ。キラコ付着。             | 江戸時代 |            |
| 瓦21 | 土坑242  | 軒棧瓦 | 9.4         | N3/0灰色 胎土精良(φ4.0mm以下の砂粒を含む) 焼成良好     | 軒丸部は右巻三巴文。軒平部は線刻の唐草文。瓦当は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面ナデ。キラコ付着。 | 江戸時代 |            |
| 瓦22 | 土坑258  | 軒平瓦 |             | N4/0灰色 胎土精良(φ1.5mm以下の砂粒を含む) 焼成良好     | 唐草文。瓦当部は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面指オサエ。                     | 近世初頭 |            |
| 瓦23 | 溝260上層 | 軒平瓦 |             | N4/0灰色 胎土精良(φ1.5mm以下の砂粒を含む) 焼成良好     | 唐草文。瓦当部は接合式。瓦当側面ヘラケズリ、瓦当裏面指オサエ。                     | 江戸時代 |            |
| 瓦24 | 地下道170 | 輪違瓦 |             | N4/0灰色 胎土精良(φ2.0mm以下の砂粒を含む) 焼成良好     | 凸面縦方向のケズリ。凹面ナデ。端部側面ヘラケズリ。                           | 江戸時代 |            |

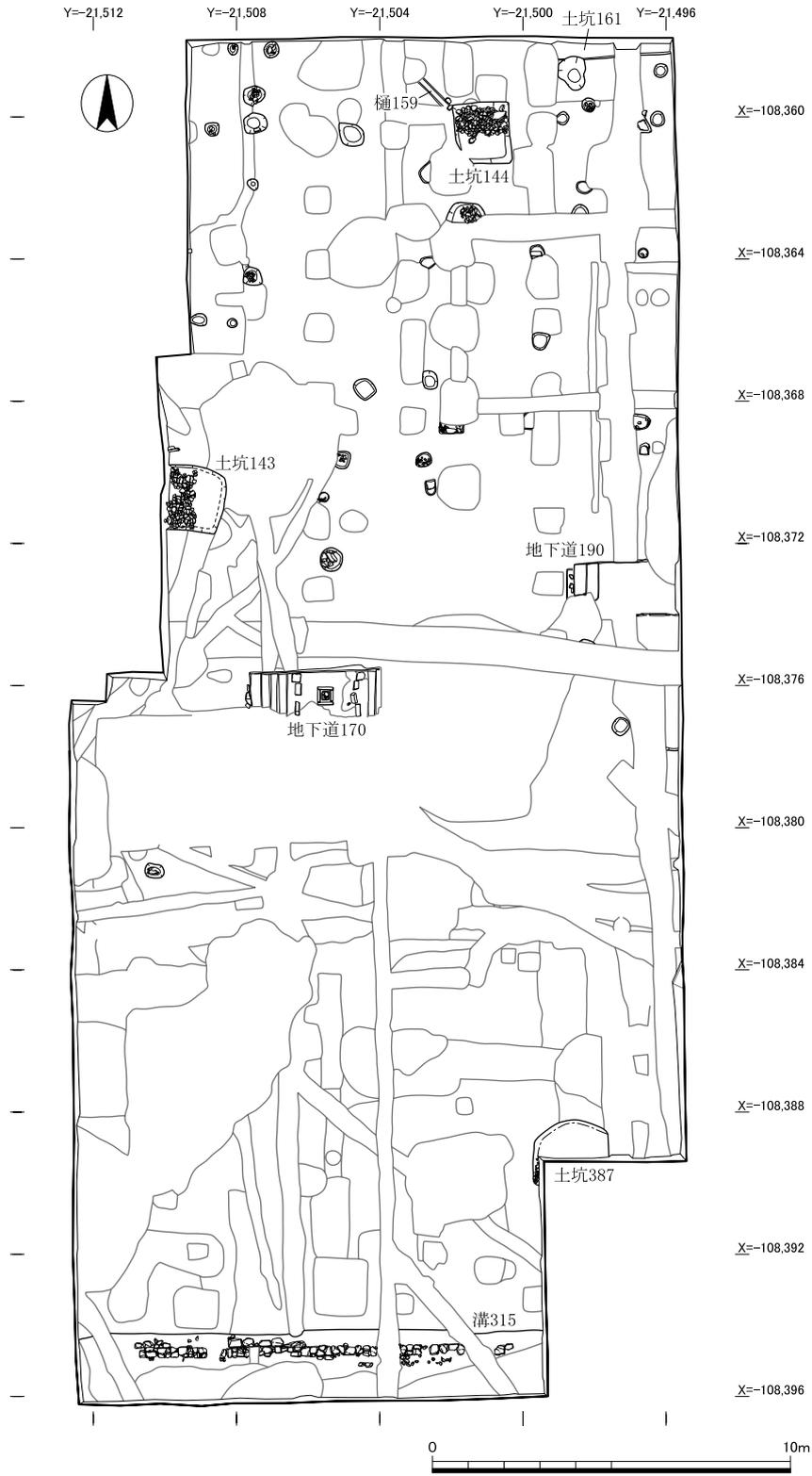
# 圖 版



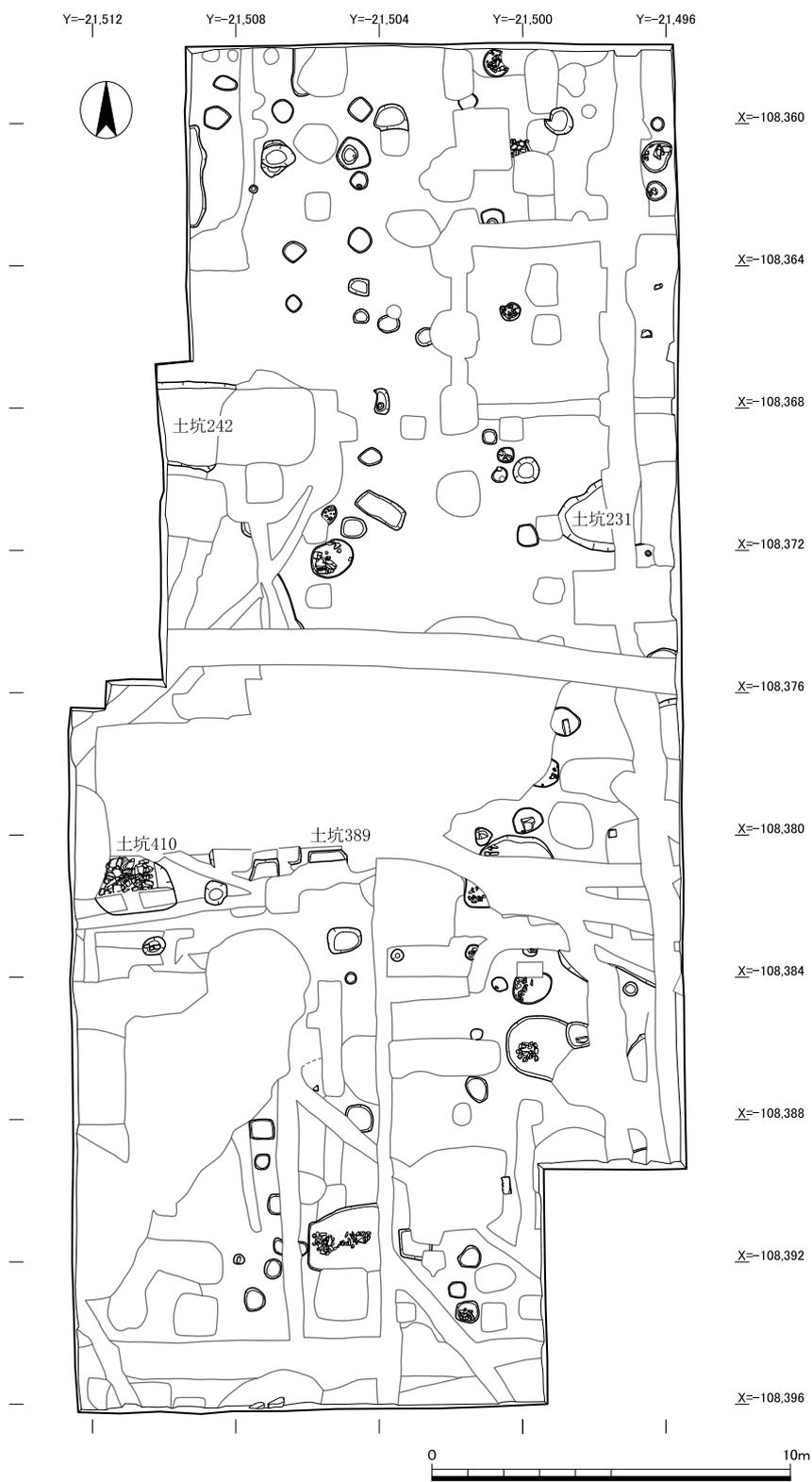


第1面平面図 (1 : 200)

図版2  
遺構

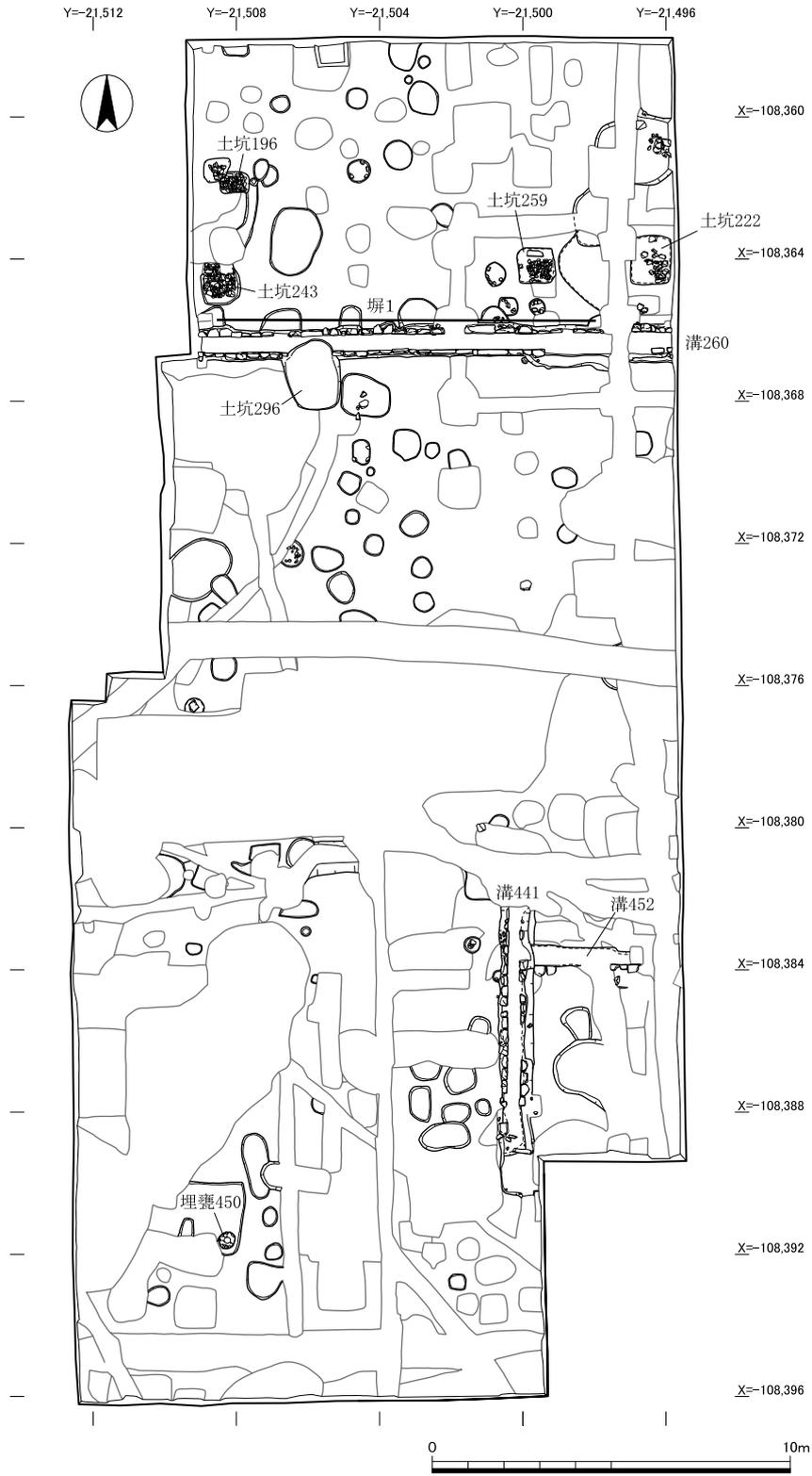


第2面平面図 (1 : 200)

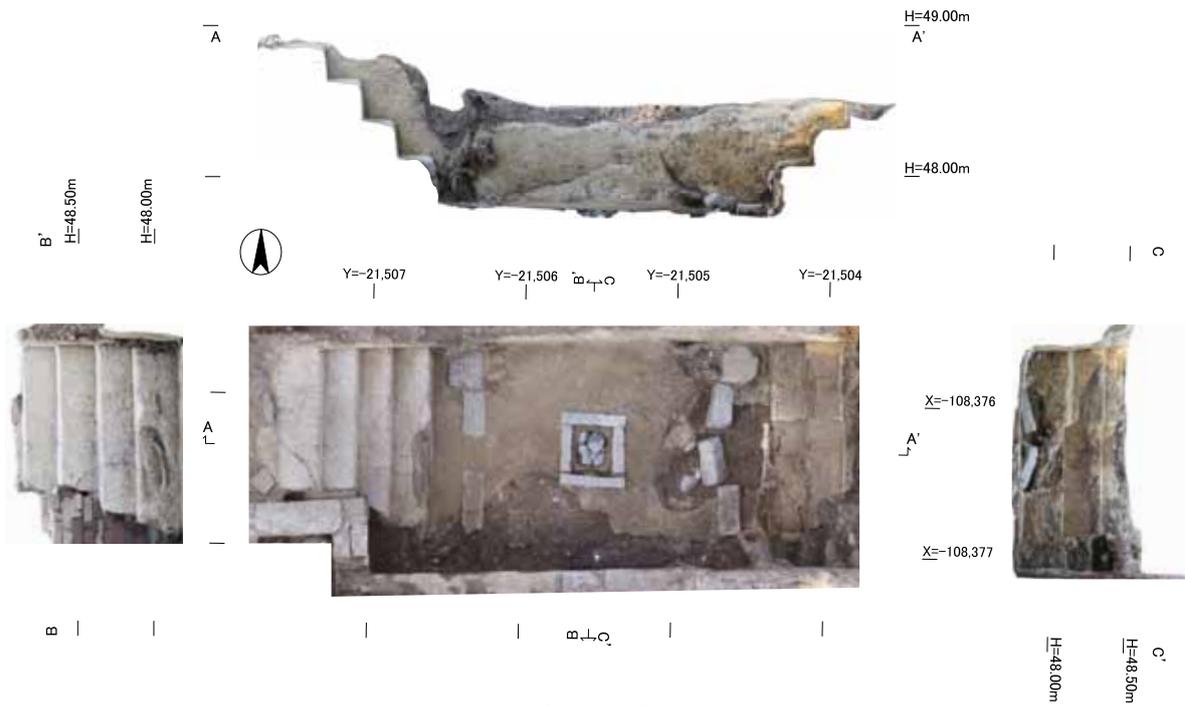


第3面平面図 (1 : 200)

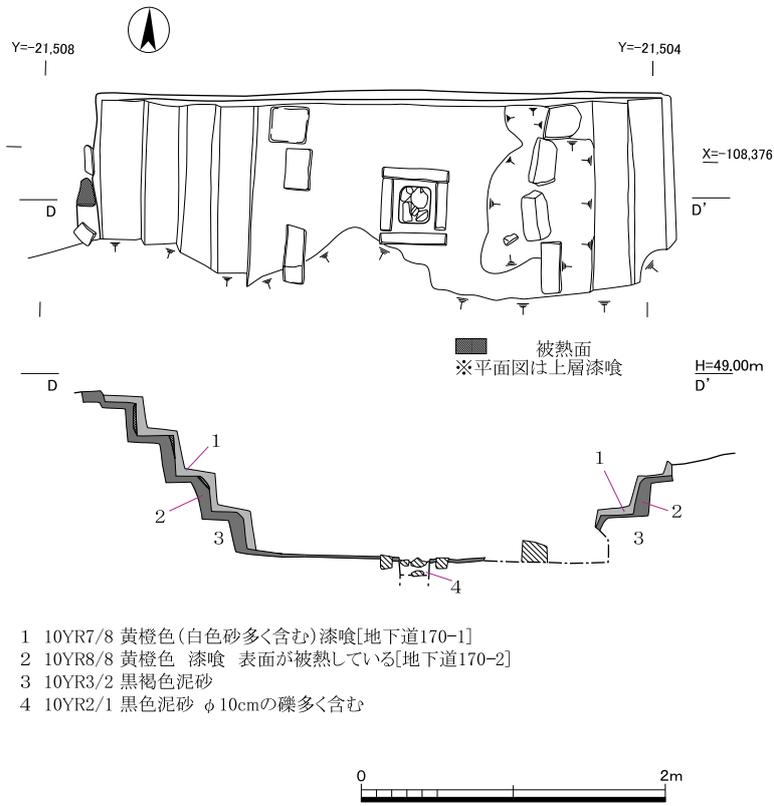
図版4  
遺構



第4面平面図 (1 : 200)



オルソ写真



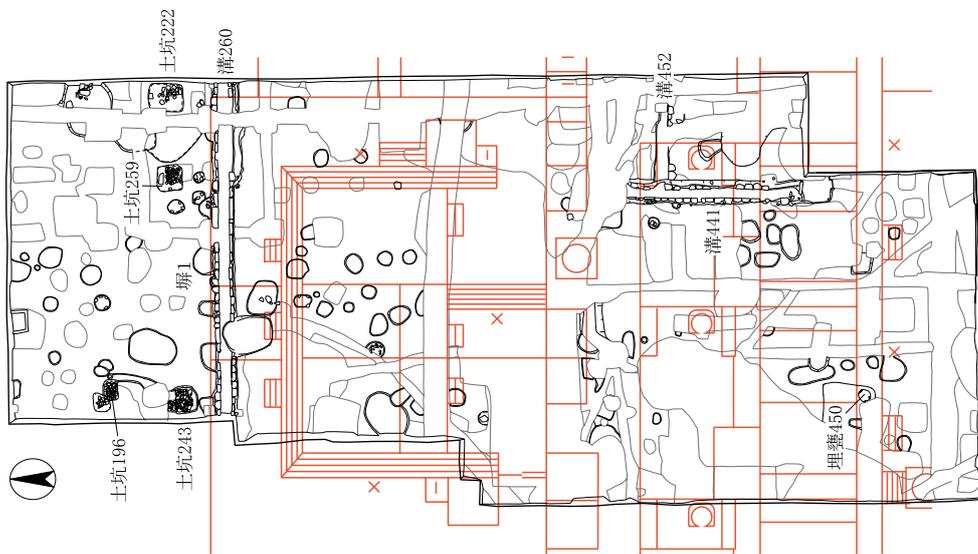
- 1 10YR7/8 黄橙色 (白色砂多く含む) 漆喰[地下道170-1]
- 2 10YR8/8 黄橙色 漆喰 表面が被熱している[地下道170-2]
- 3 10YR3/2 黒褐色泥砂
- 4 10YR2/1 黒色泥砂 φ10cmの礫多く含む



西側階段(南東から)  
左:地下道170-2 右:地下道170-1

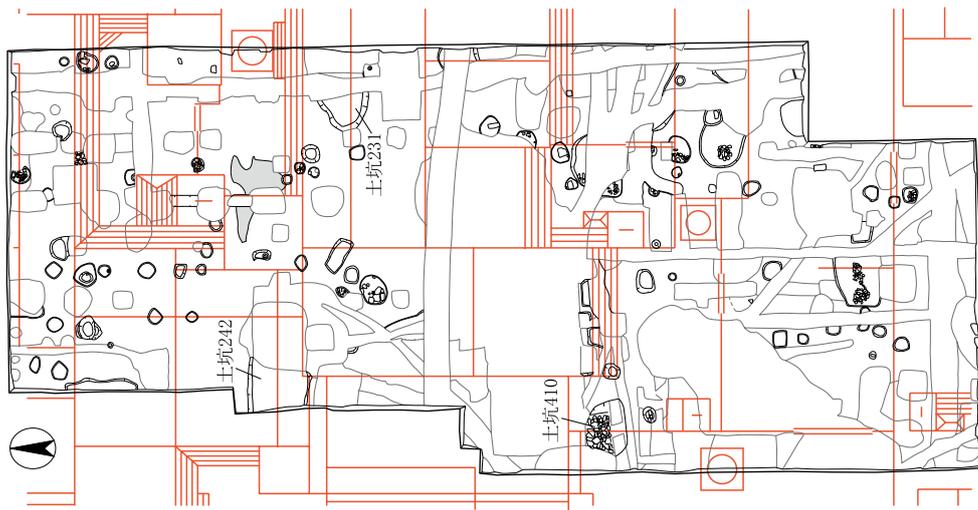
地下道170実測図 (1 : 50)

⑥宝永度造営



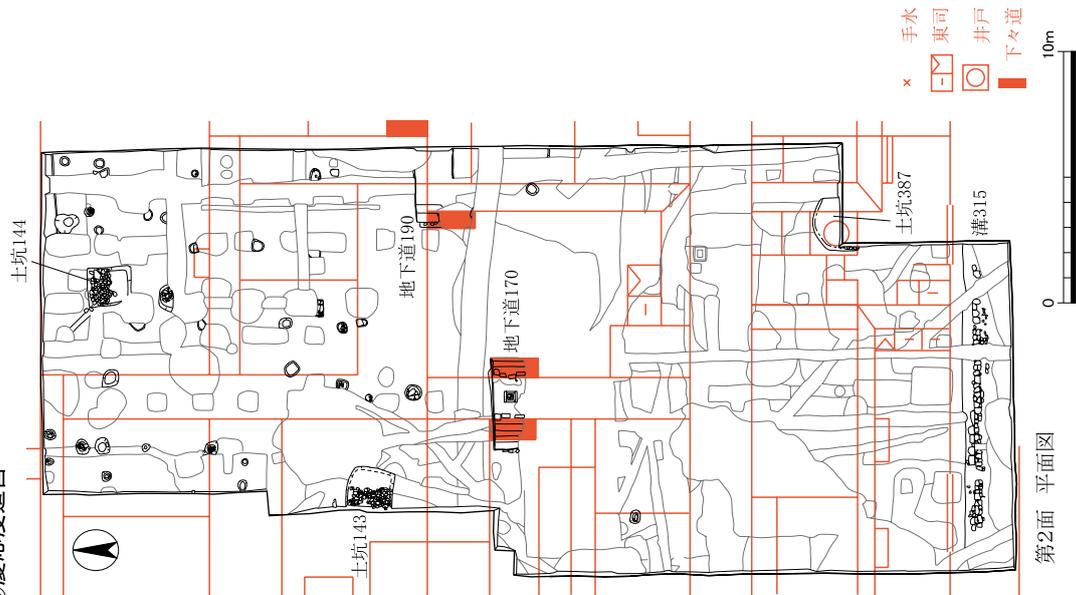
第4面 平面図

⑦延享度造営



第3面 平面図

⑧文化度造営  
⑨慶応度造営

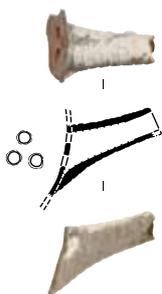


第2面 平面図

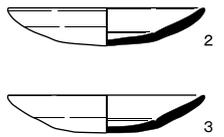
※ 以下の絵図より作図した。

左：190「法皇御所諸御殿御指図」(宝永度)、中：195「女院御所御殿絵図」(宝永度)、右：213「中宮御殿御絵図」(寛政度) 谷直樹編『大工頭中井家建築指図集 中井家所蔵本』思文閣出版 2003年

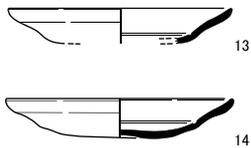
地下道170



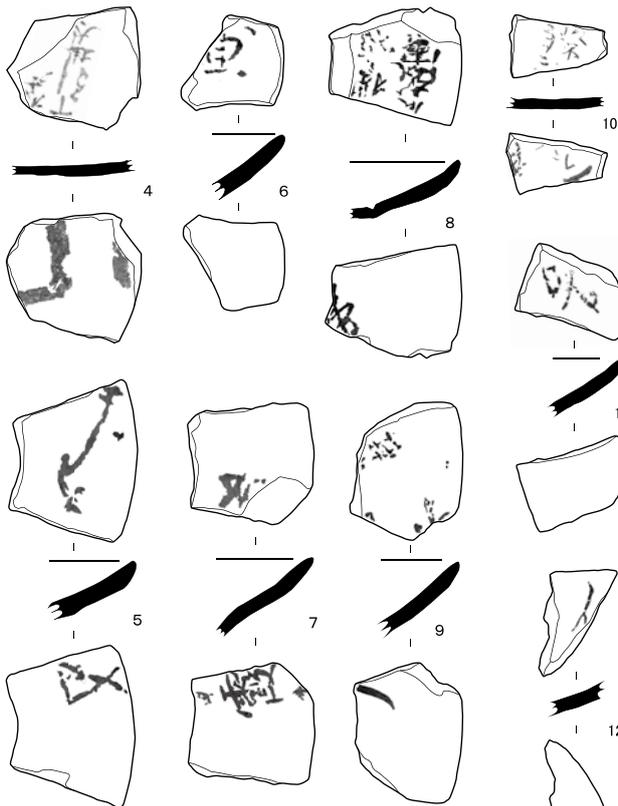
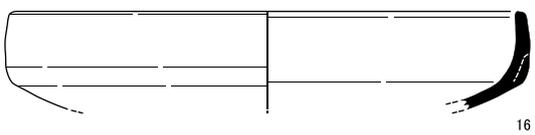
土坑143



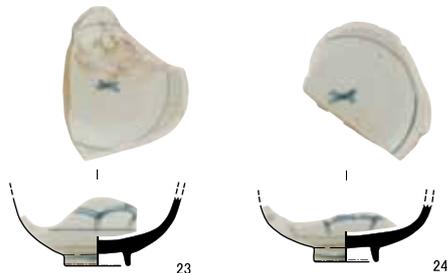
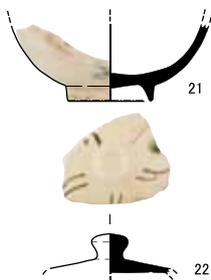
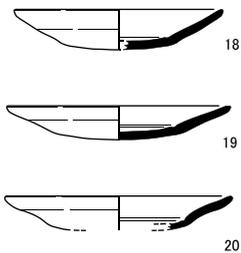
土坑389



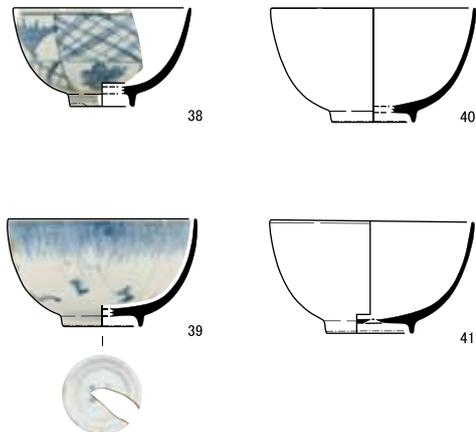
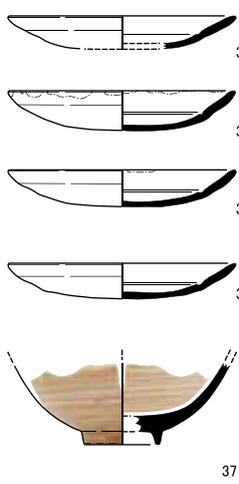
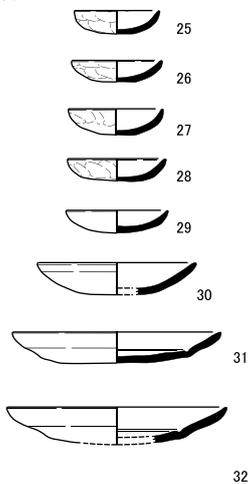
土坑231



土坑242

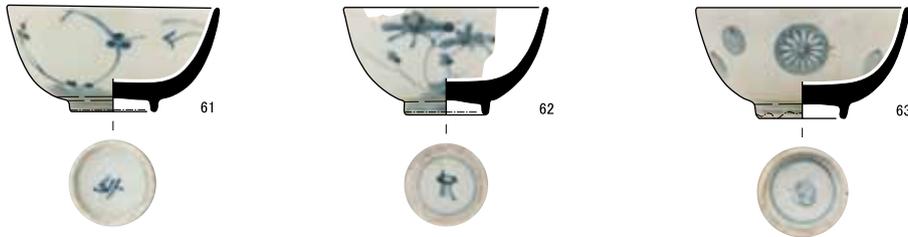
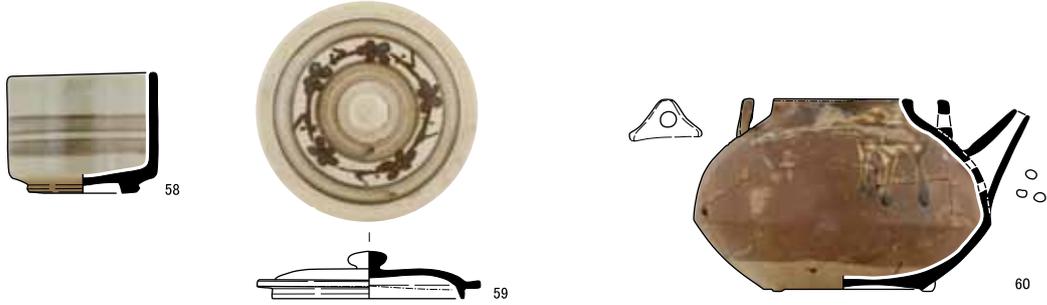
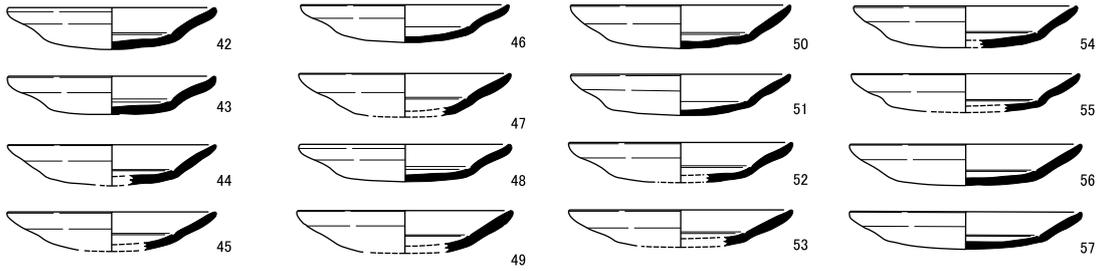


溝260

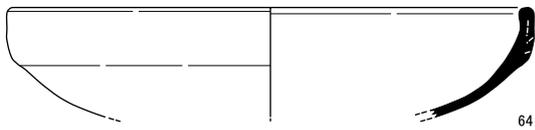


土器実測図1 (1:4、4~12は1:2)

土坑222

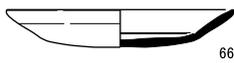


土坑296

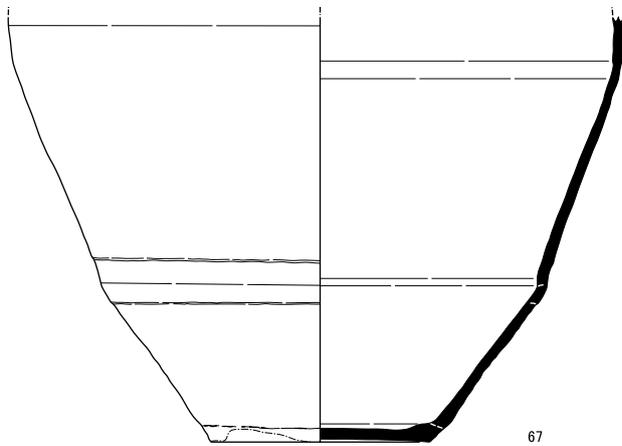
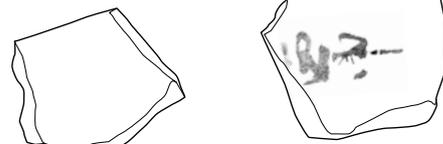


第4面精査

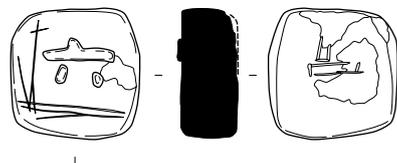
埋甕450



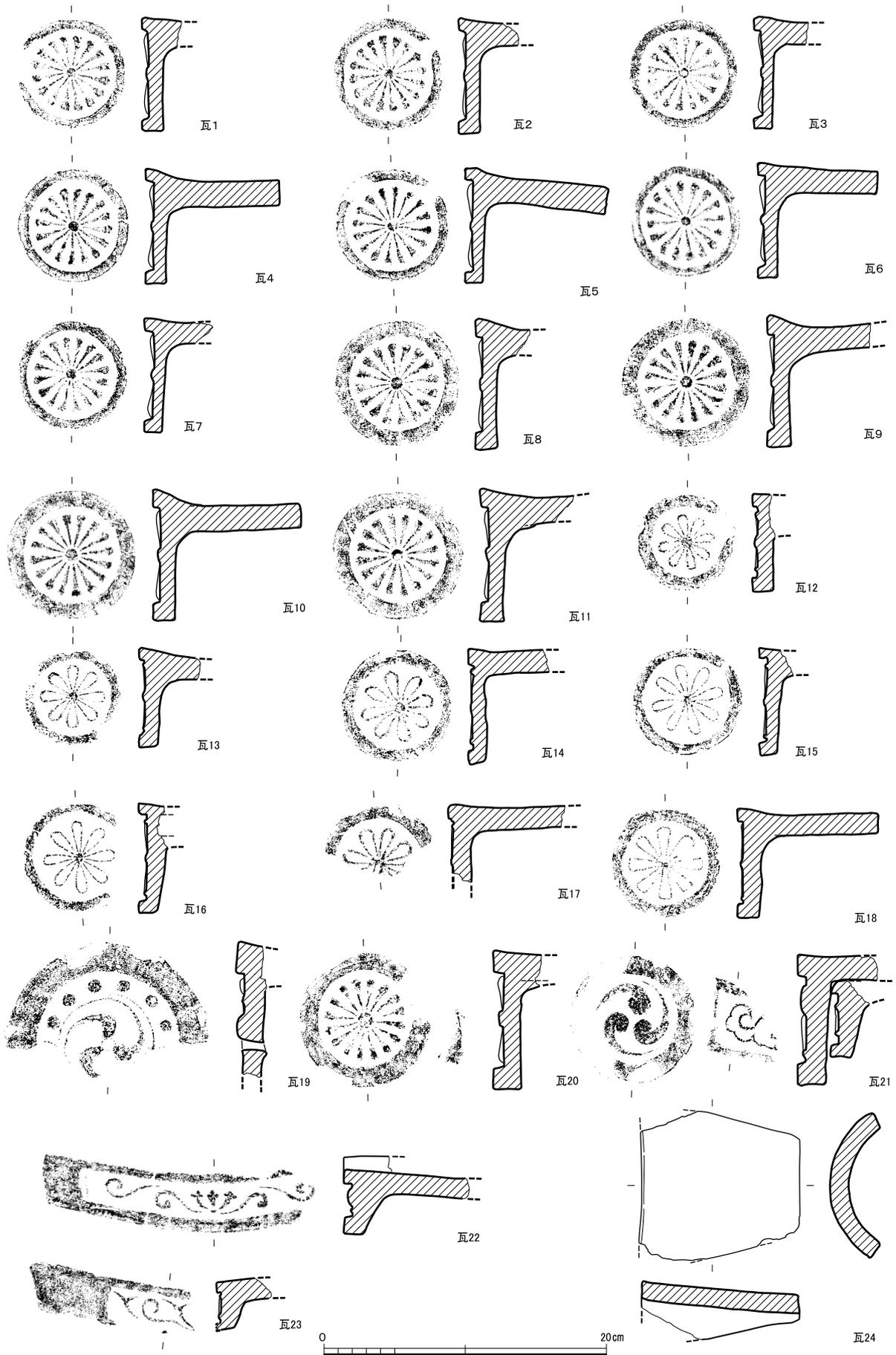
攪乱



溝17



土器実測図2 (1 : 4、67は1 : 6、69~71は1 : 2)



瓦拓影及び美測図 (1 : 4)



1 調査区北半全景 第1面（北から）



2 調査区南半全景 第1・2面（北東から）



1 建物1 (御車舎、北から)



2 溝315 (東から)



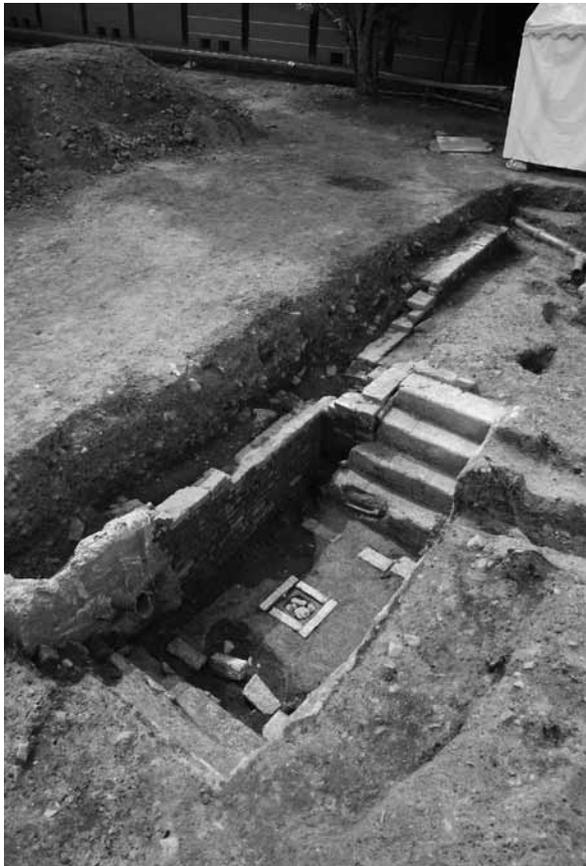
3 調査区北半全景 第2面 (北から)



1 土坑144・樋159 (西から)



2 土坑143 (北東から)



3 地下道170 (北東から)



4 地下道190 (南から)



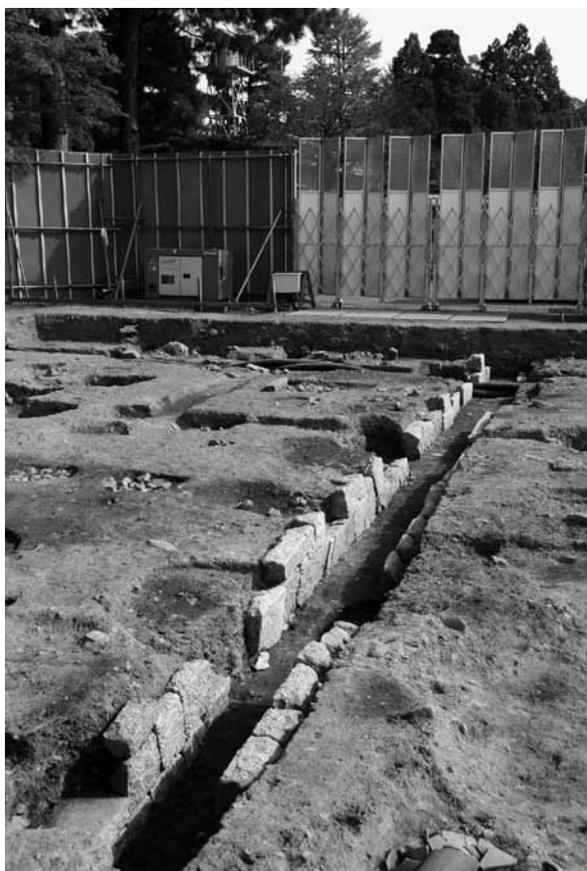
1 調査区北半全景 第3面（北から）



2 調査区南半全景 第3・4面（北から）



1 調査区北半全景 第4面（北から）



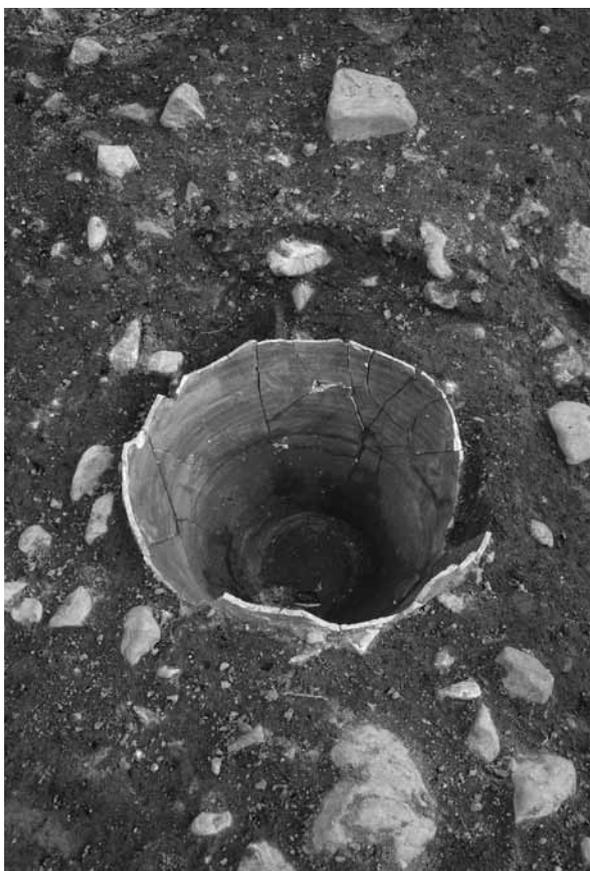
2 溝260・塀1（南西から）



3 土坑410（北東から）



1 溝441 (北から)



2 埋甕450 (北から)



3 塀基礎453 (北から)



溝260・土坑222出土土器類



瓦 1



瓦 3



瓦 4



瓦 5



瓦 6



瓦 9



瓦 10



瓦 11



瓦 12



瓦 13



瓦 14



瓦 15



瓦 20



瓦 21



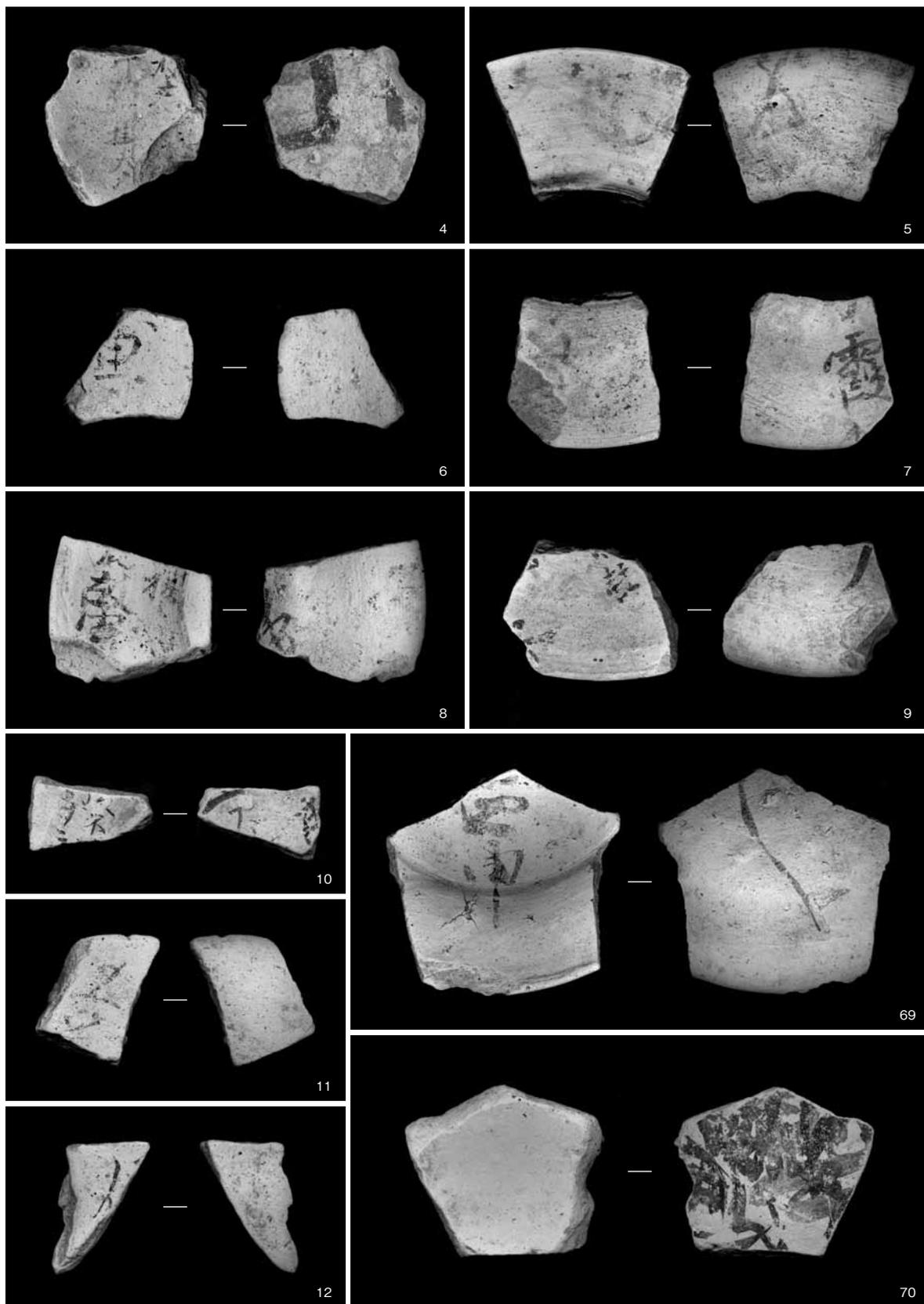
瓦 24



瓦 22



瓦 23



墨書土器赤外線写真

# 報 告 書 抄 録

| ふりがな                                  | へいあんきょうさきょういちじょうしぼうきゅうちょうあと・くげまちいせき         |       |                  |                        |                    |  |      |                    |
|---------------------------------------|---|-------|------------------|------------------------|--------------------|--|------|--------------------|
| 書名                                    | 平安京左京一条四坊九町跡・公家町遺跡                          |       |                  |                        |                    |  |      |                    |
| シリーズ名                                 | 京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告                           |       |                  |                        |                    |  |      |                    |
| シリーズ番号                                | 2015-13                                     |       |                  |                        |                    |  |      |                    |
| 編著者名                                  | 持田 透  |       |                  |                        |                    |  |      |                    |
| 編集機関                                  | 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所                          |       |                  |                        |                    |  |      |                    |
| 所在地                                   | 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1                   |       |                  |                        |                    |  |      |                    |
| 発行所                                   | 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所                          |       |                  |                        |                    |  |      |                    |
| 発行年月日                                 | 西暦2016年3月31日                                |       |                  |                        |                    |  |      |                    |
| ふりがな<br>所収遺跡名                         | ふりがな<br>所在地                                 | コード   |                  | 北緯                     | 東経                 | 調査期間   | 調査面積 | 調査原因               |
|                                       |   | 市町村   | 遺跡番号             |                        |                    |  |      |                    |
| へいあんきょうあと<br>平安京跡<br>くげまちいせき<br>公家町遺跡 | きょうとし かみぎょうく<br>京都市上京区<br>きょうとぎょえん<br>京都御苑3 | 26100 | 1<br><br>241     | 35度<br>01分<br>22秒      | 135度<br>45分<br>52秒 | 2015年9月<br>7日～2015<br>年12月8日   | 500㎡ | 参観者休<br>所棟建設<br>工事 |
| 所収遺跡名                                 | 種別  | 主な時代  | 主な遺構             | 主な遺物                   |                    | 特記事項   |      |                    |
| 平安京跡<br><br>公家町遺跡                     | 都城跡<br><br>邸宅跡                              | 江戸時代  | 溝、地下道、集水<br>榭、土坑 | 土師器、施釉陶器、磁<br>器、焼締陶器、瓦 |                    | 大宮御所(女院御所)<br>跡地。宝永の大火<br>(1708年)後から慶応<br>3年(1867)の建物跡<br>を検出。<br>宝永の大火後に撤去<br>された堀の基礎を検<br>出。 |      |                    |

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2015-13

## 平安京左京一条四坊九町跡・公家町遺跡

発行日 2016年3月31日

編集  
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1  
〒602-8435 TEL 075-415-0521  
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地  
〒604-0093 TEL 075-256-0961